

ezTCP/Ethernet series

シリアルインターフェース/イーサネットプロトコルコンバータ

E Z L - 2 0 0

取り扱い説明書

第2版 2002/10/21

ALPHA PROJECT co.,LTD

EZL-200 取り扱い説明書

このたびは、シリアルインターフェース/イーサネットプロトコルコンバータ「EZL-200」をお買いあげ頂きまして誠に有り難うございます。本製品をお役立て頂くために、本マニュアルを十分お読み下さいますようお願いいたします。今後共、弊社製品をご愛顧賜りますよう宜しくお願いいたします。

梱包内容をご確認ください

・EZL-200	×1台
・ACアダプタ	×1個
・マニュアル/ユーティリティディスク	×1枚
・保証書	×1通

- ★本製品に含まれるソフトウェアの著作権は、SollaeSystems社が保有しています。
 - ★本製品に含まれる日本語電子文書の著作権はアルファプロジェクトが保有しています。
無断で転載または複製することは堅くお断りいたします。
 - ★本製品の内容及び仕様は予告なしに変更されることがありますのでご了承ください。
 - ★本製品は万全の注意を払って製作されていますが、万一初期不良品であった場合、お買い上げ頂いた販売店へ保証書を添えてご返却ください。(弊社より直接お買い上げのお客様については、出荷時に全て登録済みとなっております。)
 - ★保証内容、免責等につきましては、添付の保証書をご覧ください。
- ☆本書内で使用されている製品名は各社の商標です。
- ☆マニュアルの閲覧には、Adobe社のAcrobatReader®が必要です。

目 次

1. 製品概要	1
1. 1 概要	1
1. 2 機能及び特長	1
1. 3 プロトコル変換の仕組み	3
1. 4 使用例	3
1. 5 製品仕様	7
1. 6 添付ソフトウェア	8
2. 機能説明	9
2. 1 外形寸法図	9
2. 3 動作モード説明	10
3. ソフトウェア説明	17
3. 1 ソフトウェアの概要	17
3. 2 ezCONFIG (ezcfg.exe) の使用方法	18
3. 3 ezTERM (ezterm.exe) の使用方法	20
3. 4 HotFlash (hotflash.exe) の使用方法	22
4. チュートリアル	24
4. 1 LANに接続して使用する	24
4. 2 仮想COMポートドライバと併用する	29
4. 3 ADSLに接続して使用する	32
4. 4 複数の機器間で通信する	37
5. その他	43
5. 1 トラブルシューティング	43
5. 2 ネットワーク用語解説	44
6. 製品サポートと使用上の注意	47
6. 1 製品サポートのご案内	47
6. 2 使用上の注意	47

1. 製品概要

1. 1 概要

最近は、ネットワークの普及も進み、あらゆる用途においてネットワーク対応が求められるようになりました。

しかし、数年前まで主流を占めていたRS232搭載機器の資産は膨大であり、これらの機器を全てネットワーク対応品に置き換えることは非常に困難です。

EZL-200は、既存のRS232機器を簡単に且つ安価にネットワークに接続することができます。

EZL-200は、シリアルインターフェースとネットワークプロトコルをインテリジェントに相互変換するプロトコルコンバータで、使用者は、ネットワークを意識することなく、RS232機器をネットワーク端末として使用することができます。

1. 2 機能及び特長

1) 既存のRS232機器がそのままネットワーク端末に！

EZL-200には、Solila System社で開発されたTCP/IPプロトコルスタックが搭載されており、シリアルインターフェースとネットワークプロトコルをインテリジェントに相互変換します。

したがって、既存のRS232機器に全く手を加えることなく使用することができます。

2) 多種多様なプロトコルに対応

EZL-200は、TCP/IPの他にUDPやDHCP、ADSLで使用されるPPPoE等のプロトコルに対応しています。

これらの動作設定は、添付のezCONFIGで簡単に設定することができます。

3) 低価格

EZL-200は、同等機能の製品と比較して、非常に安価です。

4) コンフィグレーションツール「ezCONFIG」、ターミナルソフト「ezTERM」付属

EZL-200のIPアドレスや動作条件等を簡単に設定できる「ezCONFIG」と通信テスト等に使用できる「ezTERM」が付属しています。

5) オプションソフトとの併用により、システム全体が変更なしで運用可能

オプションソフトウェアの仮想COMポートドライバ「Serial / IP」を使用すれば、PCのCOMポートアプリケーションを変更なしでネットワークに対応させることができます。

ezTCPと「Serial / IP」の組み合わせにより、既存のシステムを、ソフトウェアの変更なしにネットワーク化することができます。

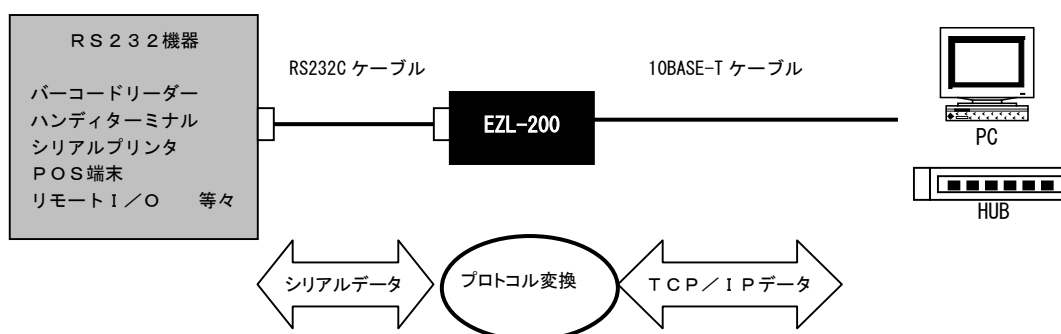
1. 3 プロトコル変換の仕組み

EZL-200はシリアルインターフェース（RS232）の送受信データをTCP/IPプロトコルに変換します。一般的にLANネットワークでは通信プロトコルとしてTCP/IPが使われます。

TCP/IPは、RS232C通信等で使用される無手順のシリアル通信とは異なり、個々の機器に割り当てられたIPアドレスを元に、複雑な手順により通信相手と接続してから、通信を開始します。（コネクション型通信）

また、データはパケット化されており、パケット毎に受信の有無やデータ誤り訂正が自動的に行われます。

図 1. 3. 2 プロトコル変換の仕組み



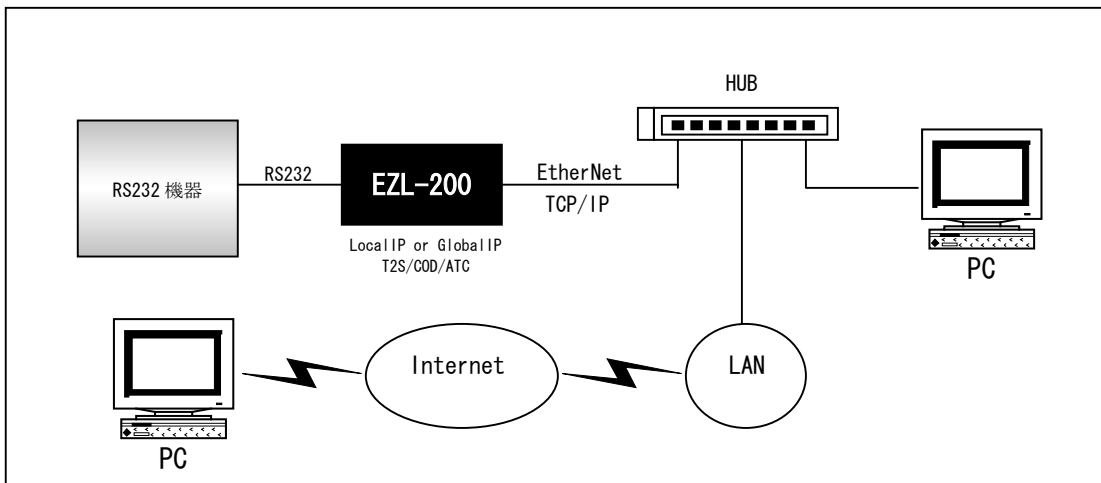
EZL-200では、複雑なTCP/IPの通信手順を全て自動的に処理します。

したがって、RS232機器側では、これらの複雑な接続手順やプロトコルなどは全く考慮する必要がありませんので、市販のRS232機器に変更を加えないで使用することができます。

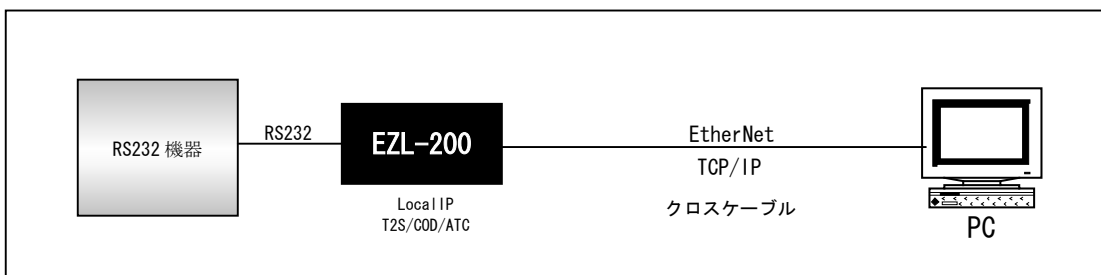
1. 4 使用例

本製品を利用すると、さまざまな形態でネットワークに接続することができます。
以下に代表的な使用例を記載します。

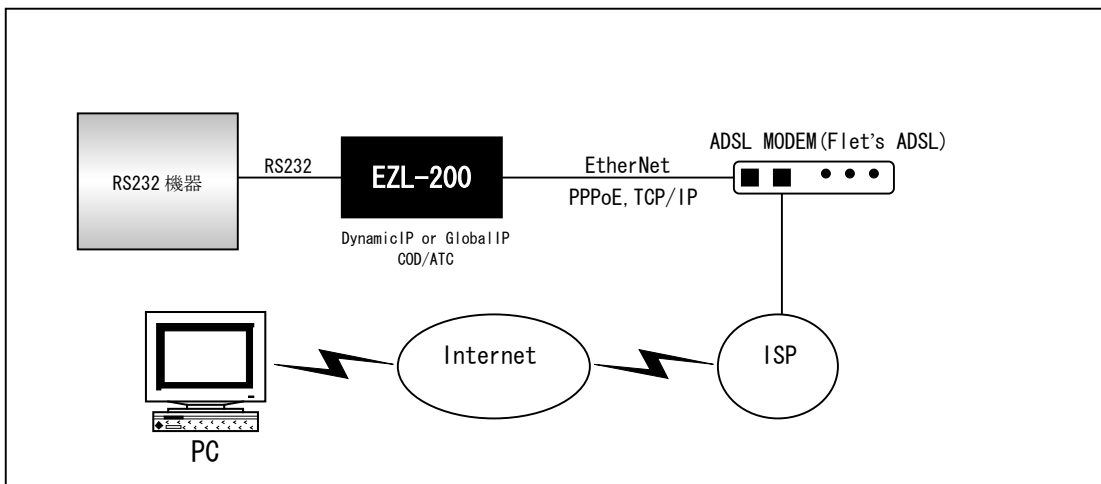
LAN 環境で使用する



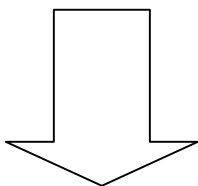
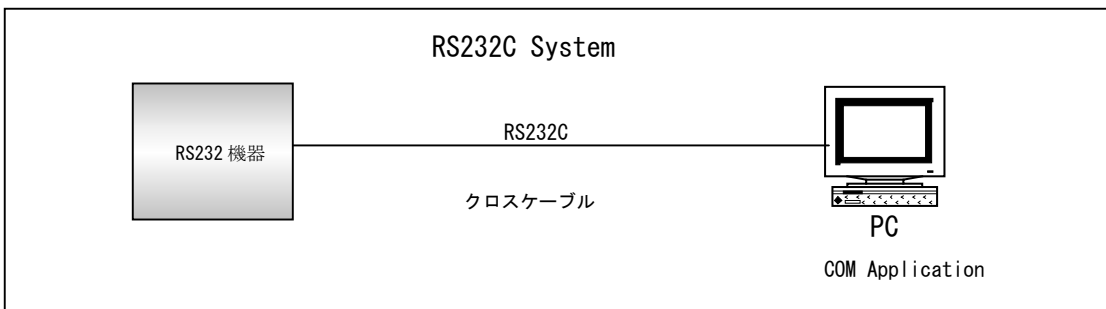
ピア・ツー・ピアで使用する



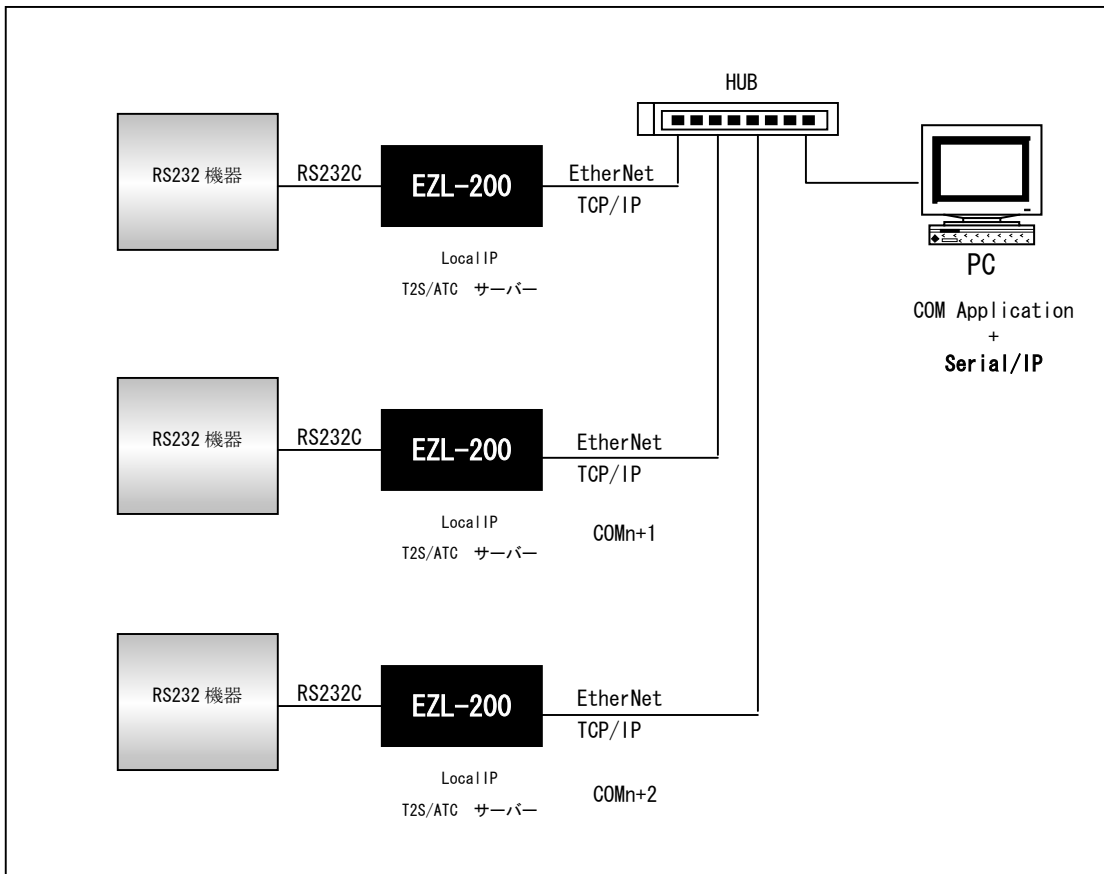
ADSL で使用する



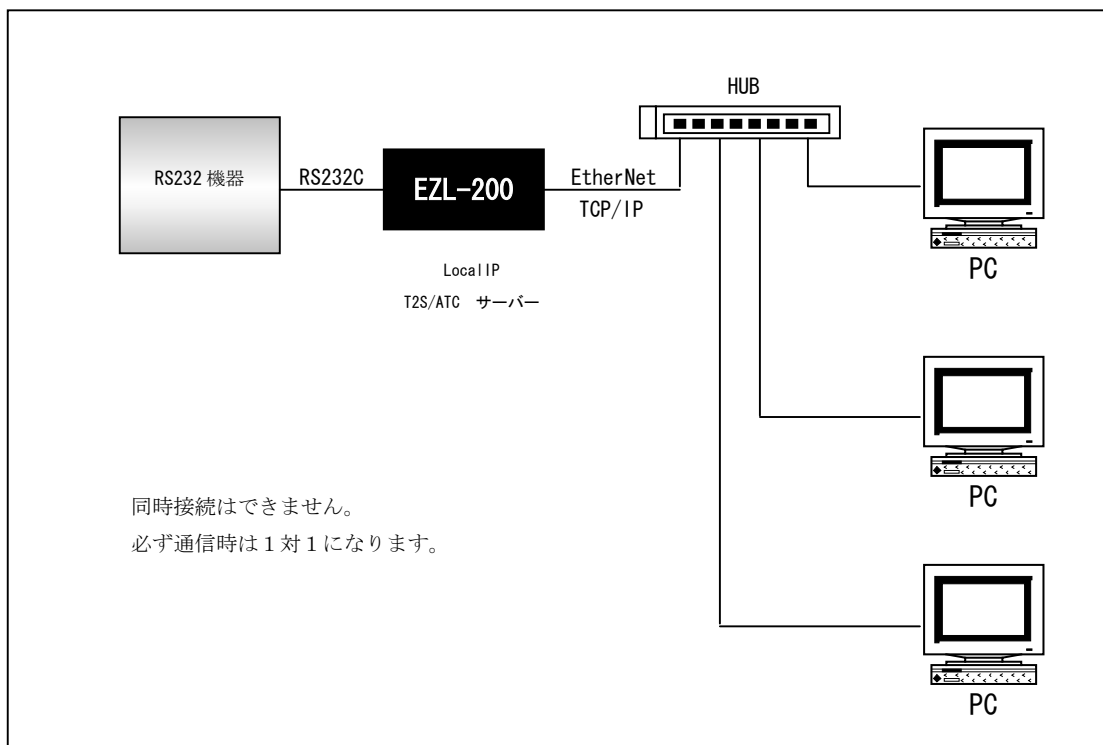
既存のRS232アプリケーションをLAN化する



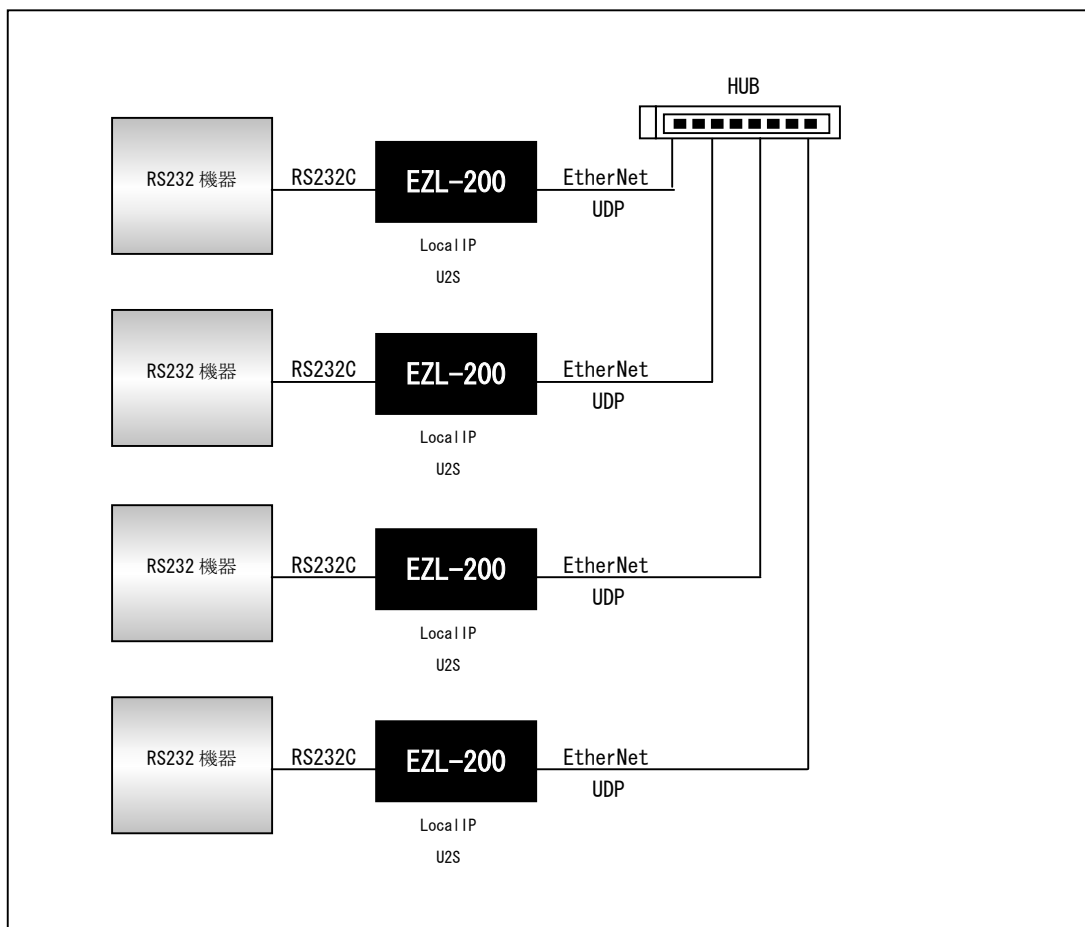
ソフトウェアの変更無しで
そのまま移行可能



RS232機器を共有化する



RS232C機器をネットワーク化する(UDP)



1. 5 製品仕様

表 1. 5-1 装置仕様

機能	詳細
LANインターフェース	10BASE-T 1ポート RJ45コネクタ
RS232C インターフェース	調歩同期シリアル (EIA-574準拠) 1ポート Dサブ9ピン 信号線 : RxD、TxD、CTS、RTS、GND 通信速度 : 1200/2400/4800/9600/14.4K/19.2K/38.4K/57.6K/115.2K bps データビット : 7/8ビット スタートビット : 1 ストップビット1 フロー制御 : なし or RTS/CTS
対応プロトコル	TCP/IP、UDP、ICMP、ARP、DHCP、PPPoE、 TELNET、EZCFG
同時接続数	1
ADSL対応	NTT フレッツADSL (1.5M)
電源	付属ACアダプタを使用 AC100V入力 DC5V/2A出力
重量	約300g
使用温度	0℃ ~70℃ 結露無し
ケース材質/外形寸法	板金ケース 78 (W) × 26 (H) × 112 (D)

<ADSL対応について>

弊社では、PPPoEの確認に以下の回線とISPにて動作確認をしております。
その他の回線業者およびISPをご利用の場合、動作しない場合もありますのでご注意ください。

ADSL回線 : フレッツADSL 1.5M (NTT西日本)
ADSLモデム : DSL SB ATUR-E1 (NTT西日本)
ISP : WAKWAK (NTT-ME)

表 1. 5-3 出荷時の設定値

設定項目	設定値
MACアドレス	0030F9XXXXXX (XXXXXXは、個々に割り振られた通し番号) ※変更はできません
ファームウェア	T2Sモード用ファームウェア (サーバー)
IPアドレス	192.168.1.200
ローカルポート番号	50000
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	0.0.0.0
サポートプロトコル	TCP/IP、EZCFG、ARP
タイムアウト	0
シリアルポート設定	38400bps, フロー制御無し

1. 6 添付ソフトウェア

本製品には以下のソフトウェアが添付されています。
詳しくは「4. ソフトウェア説明」をご覧ください。

■Windowsアプリケーション (¥tools¥*.*)

ソフトウェア名	機能
ezCONFIG	コンフィグレータソフト。ezTCPの動作設定を行うためのソフトウェア
ezTERM	TCP/IP用パケット通信ソフトウェア
HotFlash	ISPソフトウェア。ezTCPにファームウェアをダウンロードするためのソフトウェア

1. 6. 1 最新版のソフトウェアの入手方法について

最新版のソフトウェアは弊社ホームページよりダウンロードできます。

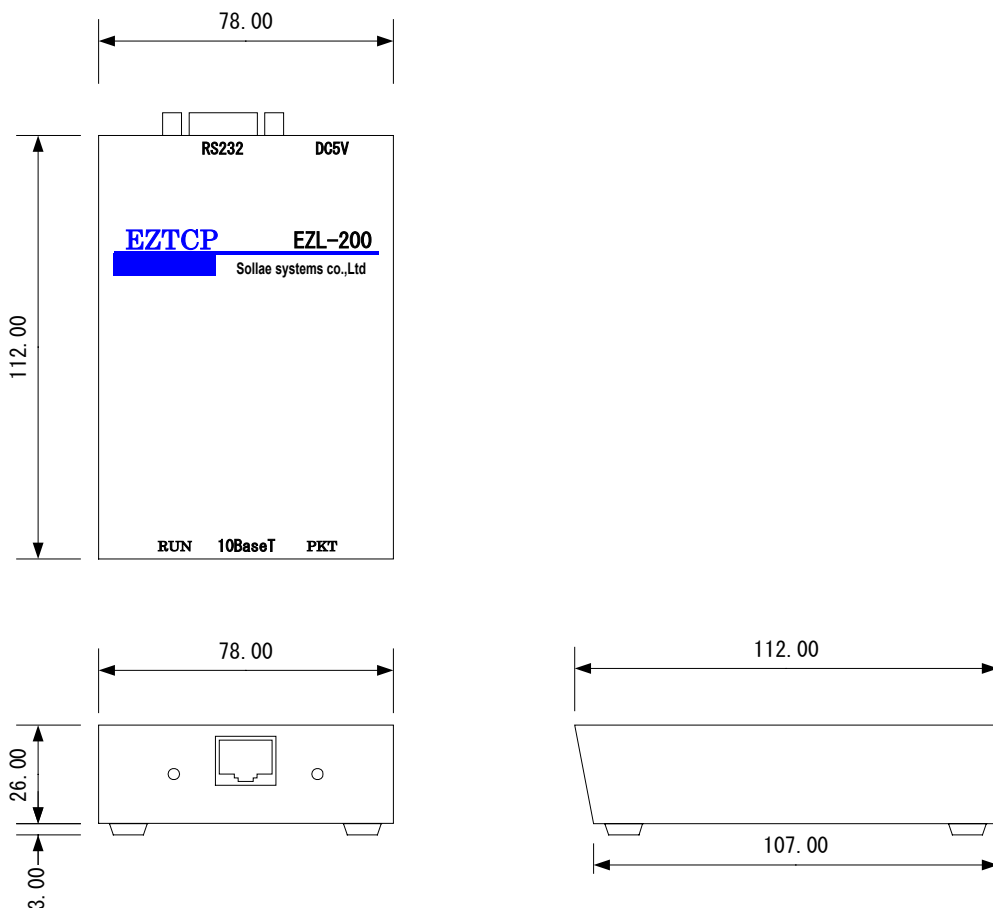
1. 6. 2 ソフトウェアの再配布について

本製品に添付されるソフトウェアを、ezTCPを組み込んだ製品とともにメンテナンス用として再配布することが可能です。
それ以外の使用目的において、再配布することは認めておりません。

2. 機能説明

2. 1 外形寸法図

図 2. 1-1 外形寸法図



RS232C 端子配列

1	N. C
2	R x D
3	T x D
4	N. C
5	GND
6	N. C
7	RTS
8	CTS
9	N. C

RS232C (Dサブ9ピン)

10BASE-T 端子配列

1	TX+
2	TX-
3	RX+
4	N. C
5	N. C
6	RX-
7	N. C
8	N. C

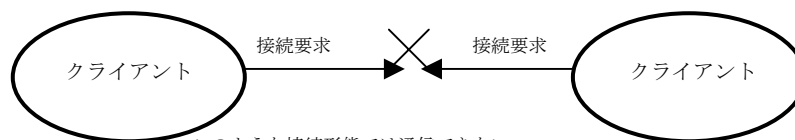
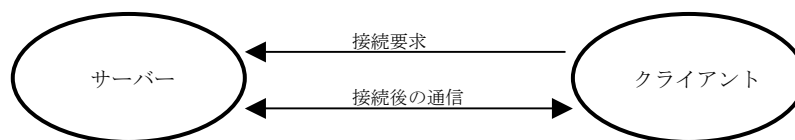
RJ-45モジュラジャック

2.3 動作モード説明

EZL-200には、さまざまな用途を想定し、幾つかの動作モードが用意されています。
動作モードは、添付のコンフィグレータソフト「ezCONFIG」により簡単に設定できます。

2.3.1 サーバーとクライアントについて

TCPは、コネクション型の通信であり、最初に接続を確立してから通信をおこないます。
2点間で通信をおこなう場合には、必ず一方がサーバーでもう一方はクライアントとなります。
このサーバーとクライアントの違いというのは、簡単に説明するならば、クライアントはサーバーに接続要求を出す側であり、サーバーはクライアントからの接続要求を待つ側であるということだけです。接続が確立したあとは双方向で通信が可能です。
なおezTCPは、同時接続数が1つしか許容されていませんので、複数のネットワーク機器が同時に接続されることはありません。
ただしUDPでは接続を確立する必要がなく、サーバー/クライアントの概念がありません。



このような接続形態では通信できない。
必ず、一方がサーバーで、もう一方がクライアントとなる。

2. 3. 2 動作モードとサポートプロトコル

以下の動作モードとサポートするプロトコルの関係を示します。

動作モード	クライアント/サーバー	TCP/IP	UDP	PPPoE	DHCP	TELNET	ICMP	ARP	EZCFG
T2S	サーバー	○	×	×	×	○	○	○	○
ATC	サーバー動作時	○	×	×	×	○	○	○	○
ATC	クライアント動作時	○	×	○	○	○	○	○	○
COD	クライアント	○	×	○	○	○	○	○	○
U2S	—	×	○	×	×	○	○	○	○

2. 3. 3 各動作モードの説明

① T2Sモード (TCP to Serial) - サーバー

T2Sモードでは、ezTCPがサーバーとして動作します。この動作モードが選択されている場合、ezTCPは電源を投入された後、クライアントからの接続要求を待ちます。

図 2. 3. 1 PCと接続して使用する例 (T2Sモード)

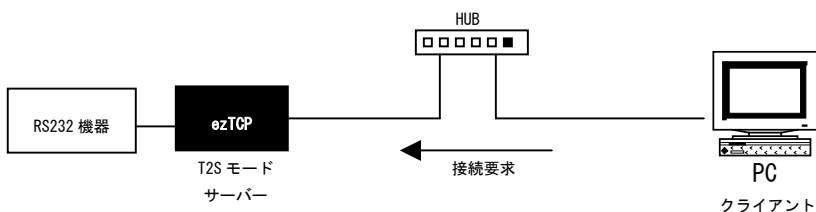
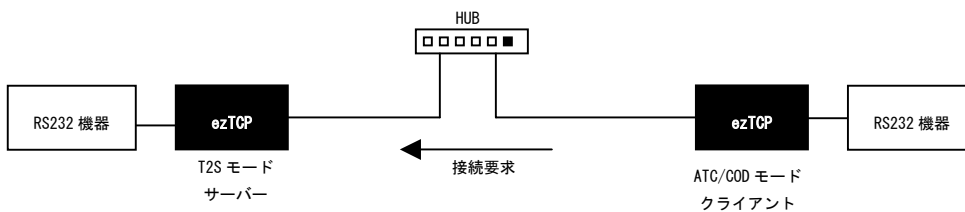


図 2. 3. 2 ezTCP同士を接続して使用する例 (T2Sモード⇔ATC/CODモード)



② CODモード (Connect on Demand) - クライアント

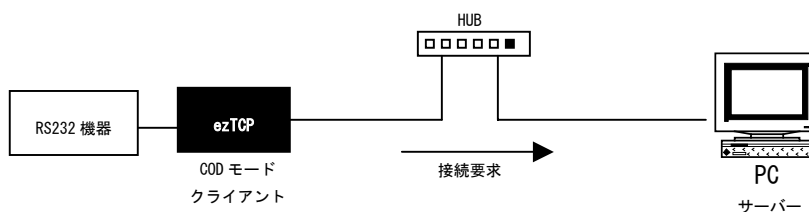
CODモードでは、ezTCPがクライアントとして動作します。この動作モードが選択されている場合、ezTCPはシリアルポートから、一定のバイト数 (ezCONFIGで指定されたWATERMARK) を受信した時点で、サーバーに接続要求を出します。接続が確立すると、バッファされたデータ (MAX 4Kbyte) をサーバーに送信し、その後は、シリアルポートとネットワークの送受信データを双方向に逐次変換します。

WATERMARKが0に設定されている場合には、ezTCPの電源が投入されたら直ぐに接続要求を出します。また、TIMEOUTも無効になります。

WATERMARKが1以上で設定されている場合には、接続中に一定時間 (ezCONFIGで指定されたTIMEOUT) 以上、データの送受信がない状態が続くと接続を切断します。その後、シリアルポートからWATERMARKで指定されたバイト数を受信するとサーバーに再接続します。TIMEOUTが0に設定されている場合には、接続を維持したままになります。

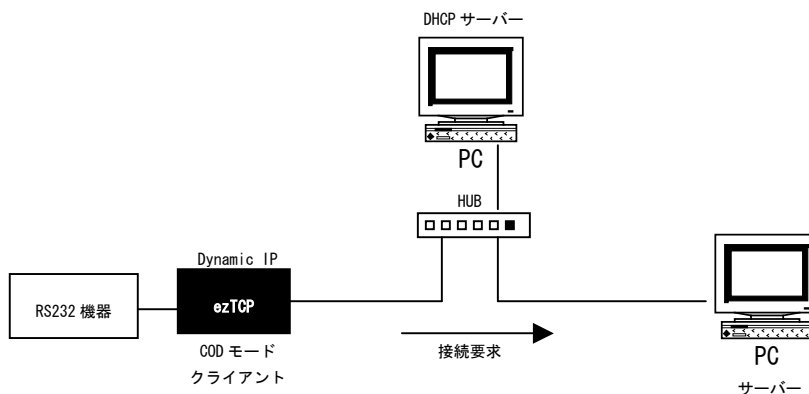
PEER PORTが23に設定されている場合には、自動的にTELNETクライアントのエミュレーションを行います。

図 2. 3. 3 PCと接続して使用する例 (CODモード)



ezTCP同士で接続する方法は図2. 3. 2をご覧ください。

図 2. 3. 4 DHCPサーバーを使用する例 (CODモード)



③ A T Cモード (AT Command) –クライアント/サーバー

A T Cモードでは、シリアルポートからA Tコマンドによって動作を制御します。したがって、サーバー動作もクライアント動作も可能です。

以下にコマンド一覧を記載します。

<1> 標準A Tコマンドセット (各コマンドには、デリミタとしてCR(0x0d)を付加します)

コマンド	機能	動作内容
A	接続待ち	e z T C Pをサーバーで起動し、接続待ち状態にする。
D	接続を確立する	e z T C Pをクライアントで起動し、サーバーに接続する。
E	エコー	エコー o n / o f (E1:enable) / E0:disable)
H	切断	接続を切断する。
I	e z T C Pの情報取得	e z T C Pの情報を取得する。
O	オンライン	コマンドモードからオンラインモードへ移行
V	リザルトコードの表示形式	リザルトコードの表示形式を指定する。(V0:番号表示 V1:文字表示)
Z	リセット	e z T C Pをリセットする。

<2> 拡張A Tコマンドセット (各コマンドには、デリミタとしてCR(0x0d)を付加します)

コマンド	機能	動作内容
+PLIP	ローカル I P アドレス	自 I P アドレスを設定する。 設定しない場合には、E E P R O Mの値が使用されます。 P P P o EとD H C Pでは無効となります。
+PSM	サブネットマスク	サブネットマスク値を設定する。 設定しない場合には、内部E E P R O Mの値が使用されます。
+PGIP	ゲートウェイ I P アドレス	ゲートウェイの I P アドレスを設定する。 設定しない場合には、内部E E P R O Mの値が使用されます。
+PNS	ネームサーバー I P アドレス	ネームサーバーの I P アドレスを設定する。 現在サポートしていません。
+PLP	ポート番号(server)	自ポート番号を設定する。 設定しない場合には、内部E E P R O Mの値が使用されます。
+PTO	タイムアウト	接続タイムアウト時間を指定する。 内部E E P R O Mの値が使用されます。
+PRIP	リモート I P アドレス(Client)	クライアント動作時に、接続先 I P アドレス (サーバー) を指定する。
+PRP	リモートポート番号(Client)	クライアント動作時に、接続先ポート番号 (サーバー) を指定する。
+PWP	パラメータ書き込み	内部E E P R O Mにパラメータを書き込み、リセットします。 リモート I P アドレスとリモートポート番号は保存されません。
+PRC +PARP +PDC +PPE	セットアップコマンド	各プロトコルの有効(1)/無効(0)をセットします。 PRC(ezCFG)、PARP(ARP)、PDC(DHCP)、PPE(PPPoE) 例) AT+ARP=0 → ARP 無効

※各コマンドに'? 'を追加すると、パラメータが返されます。

オンラインモードからコマンドモードへの移行は‘+++’を使用しますが、以下の条件で送信してください。

データ	500ms 以上	+	0~500ms	+	0~500ms	+	500ms 以上	データ
-----	----------	---	---------	---	---------	---	----------	-----

※ + (0x2B)

1バイト目の +	前のデータを送信した後から 500 ms 以上経過後
2, 3バイト目の +	前の+ から 0 - 500 ms 以内
+++の後の送信データバイト	500ms 以上

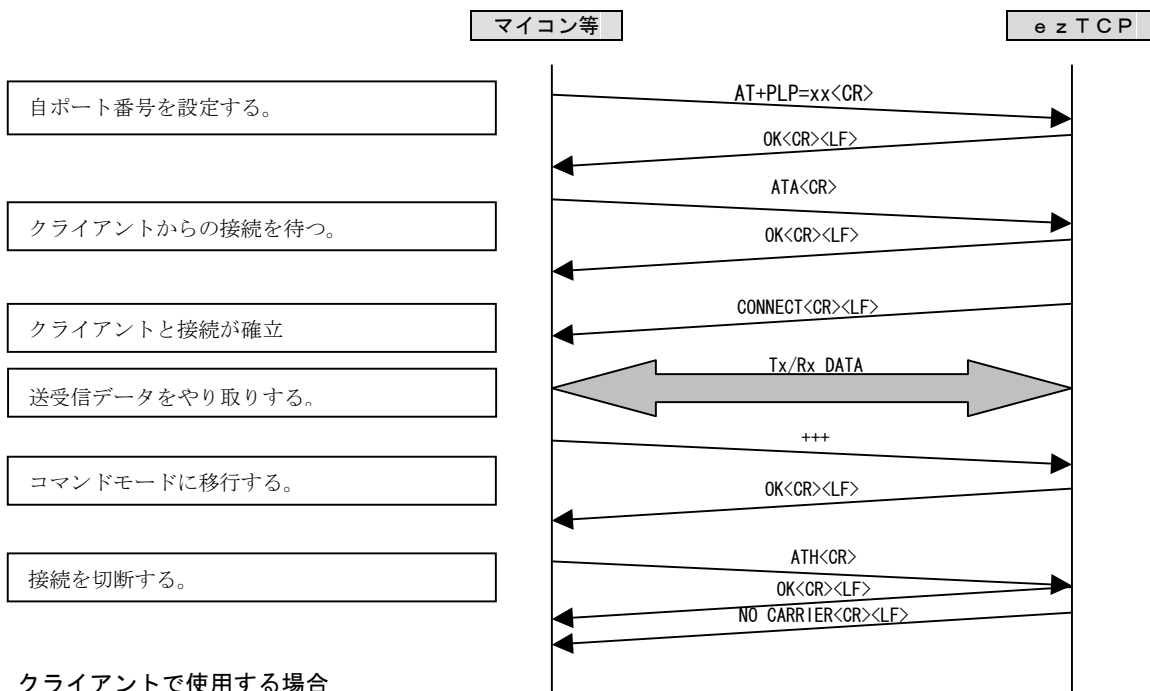
< 3 > 返却メッセージ

以下のメッセージは、e z T C Pより送信されるメッセージです。(各メッセージには、CR (0x0d)+LF (0x0a)が付加される)

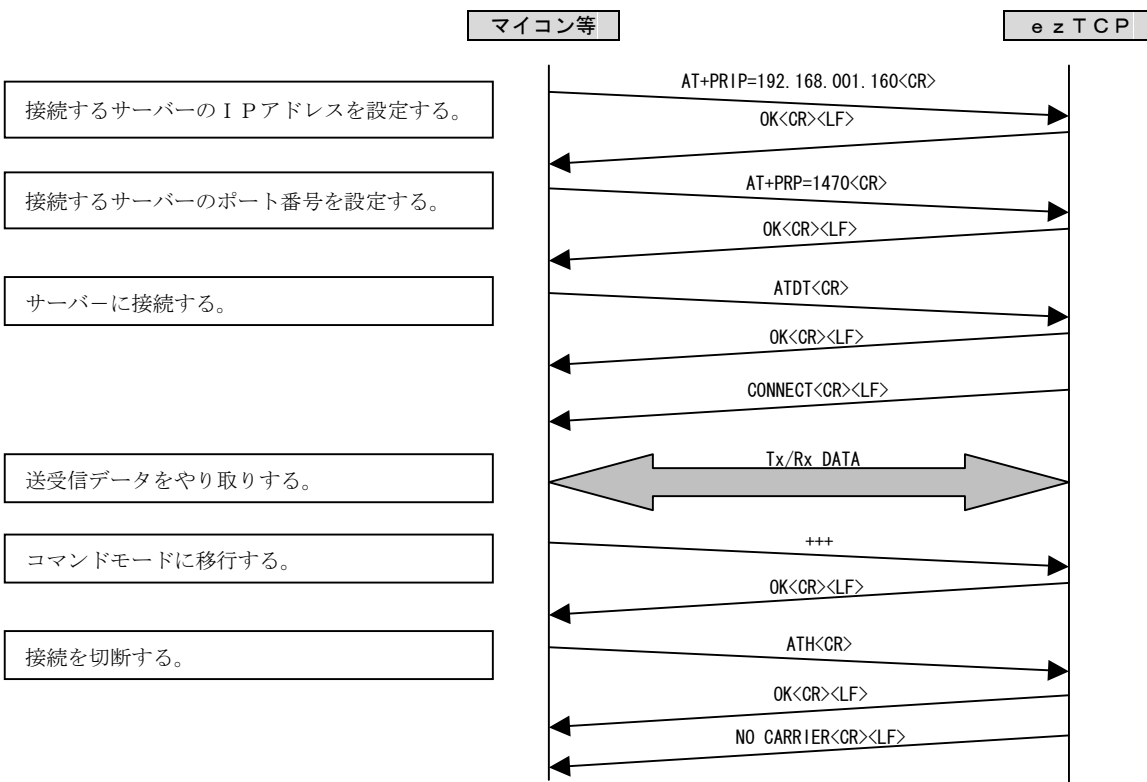
コマンド	動作内容
OK	コマンドを正常に受け付けた場合に送信されます。
CONNECT	接続が確立すると送信されます。
ERROR	コマンドが誤ってあたり、パラメータに誤りがあった場合等に送信されます。
NO CARRIER	接続が切断された場合に送信されます。

図 2. 3-5 ATコマンドモードの使い方

サーバーで使用する場合



クライアントで使用する場合



④ U2Sモード (TCP to Serial)

U2Sモードでは、ホスト/クライアントの区別がありません。この動作モードが選択されている場合、ezTCPはシリアルポートから受信したデータをUDPパケットに変換し、IPアドレスとポート番号にて指定した機器に対して送信を行います。また、他の機器からezTCPに対して送信されたUDPパケットを受信してそのデータをシリアルポートから送信します。

UDPは相手機器の状態に関わらず送信を行いエラー訂正も行わない為、送受信の確実性は保証されません。

WATER MARKはシリアルデータをUDPパケットに変換する時のデータサイズをバイト単位で指定するパラメータです。WATER MARKが0以外に設定されている場合、ezTCPはシリアルポートからWATER MARKで指定されたバイト数分のデータを受信した後にそのデータをUDPパケットに変換して送信を行います。

WATER MARKが0に設定されている場合には、シリアルポートからデータを受信した時点でUDPパケットへの変換が行われ、送信が行われます。

TIME OUTはシリアルデータをUDPパケットに変換する時の時間を秒単位で指定するパラメータです。

TIME OUTが0以外に設定されている場合、ezTCPはシリアルポートから最初のデータを受信してから、設定された時間を経過するまでに受信したデータをUDPパケットに変換して送信を行います。

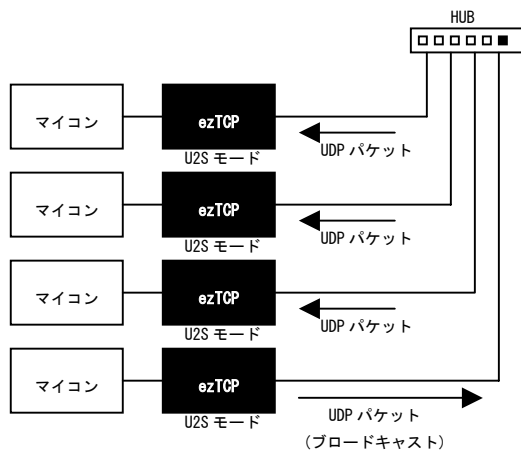
TIME OUTが0に設定されている場合には、シリアルポートからデータを受信した時点でUDPパケットへの変換が行われ、送信が行われます。

U2Sモードではブロードキャストアドレスの送受信が可能です。

送信先IPアドレスが255.255.255.255のUDPを受信した場合、通常のUDP受信と同様に

UDPデータがシリアルデータに変換されます。これにより一台の機器から送信されたUDPパケットを一度に複数のezTCPにて受信することが可能となります。

図 2.3-6 複数の機器で使用する例 (U2Sモード)



3. ソフトウェア説明

3. 1 ソフトウェアの概要

e z T C Pには以下のソフトウェアが添付されています。

- ezCONFIG コンフィグレータソフト。e z T C Pの動作設定を行うためのソフトウェアです。
- ezTERM TCP/IP用のターミナルソフトウェアです。本ソフトウェアを使用して通信のテストを行えます。
- HotFlash I S Pソフトウェア。E Z L - 2 0 0にファームウェアをダウンロードするためのソフトウェアです。E Z L - 2 0 0のバージョンアップに使用します。

動作環境

環境	機能
パーソナルコンピュータ	EtherNet ポート(10BASE-T)を備えたPC/AT互換機
OS	Windows 95/98/ME/NT4.0/2000/XP

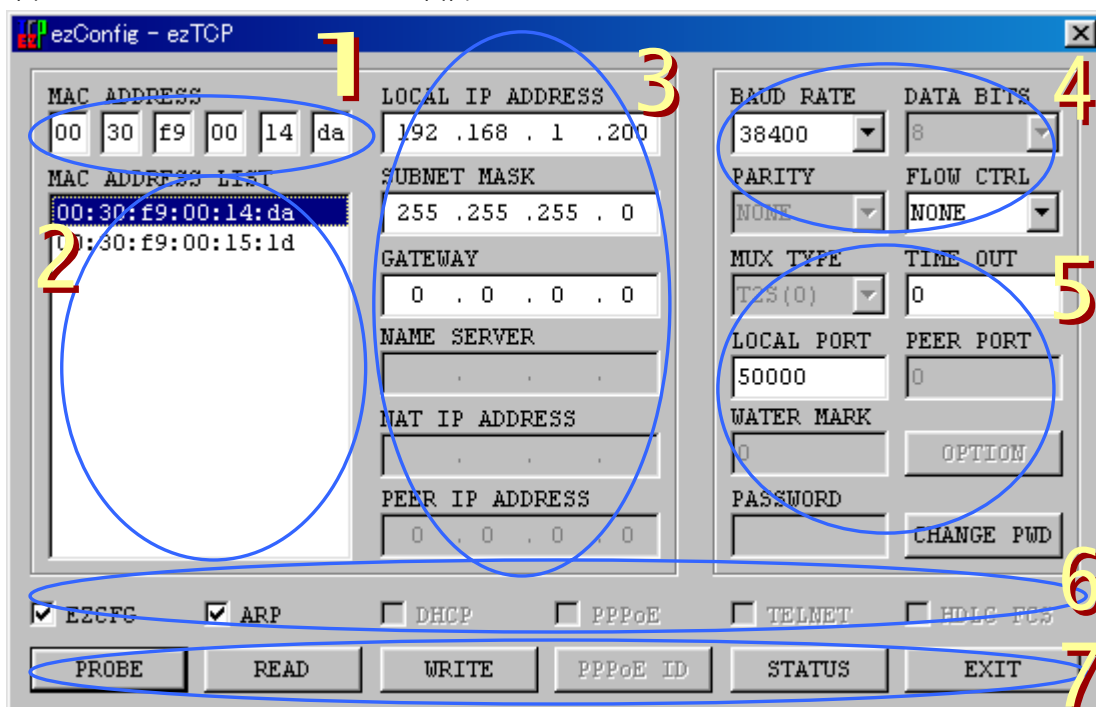
注 意 100BASEのネットワークカードやHUBは、10BASE-Tをサポートしている製品を使用してください。

4. 2 e z C O N F I G (egcfg.exe) の使用方法

e z C O N F I G は、E Z L - 2 0 0 の I P アドレスや各種動作条件を設定するためのコンフィグレータソフトです。設定はLAN経由で行われます。前述の動作環境にあったパソコンでご使用ください。

4. 2. 1 e z C O N F I G の画面説明

図 4. 2-1 e z C O N F I G の画面

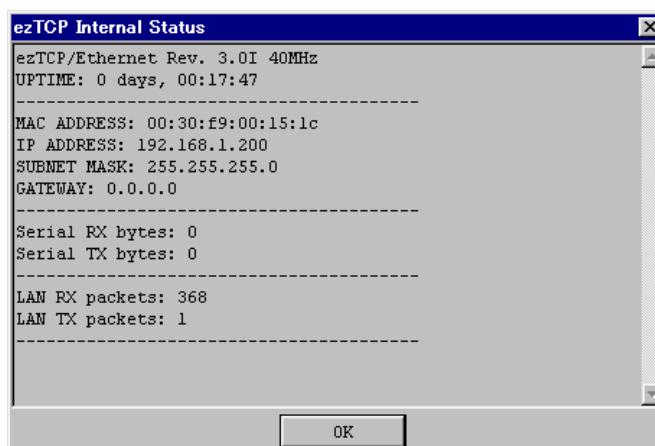


項目説明

表示/操作項目	内容	T2S	COD	ATC
1. MAC ADDRESS	MAC ADDRESS LIST で選択された、カレントのMACアドレスが表示されます。 MACアドレスの変更はできません。 個々のe z T C PのMACアドレスは、製品本体にシールで明示されています。	○	○	○
2. MAC ADDRESS LIST	LAN上に存在するe z T C Pを表示します。 表示を更新するには、「PROBE」ボタンをクリックしてください。	○	○	○
3. IP 設定	カレントで選択されているe z T C PのIPアドレスとマスク値を設定します。 設定する値は、ネットワーク管理者と相談してください。			
	LOCAL IP ADDRESS 自IPアドレスの設定	○	○	○
	SUBNET MASK サブネットマスク値の設定	○	○	○
	GATE WAY ゲートウェイ値の設定	○	○	○
	NAME SERVER サポートしていません。	×	×	×
	NAT IP ADDRESS サポートしていません。	×	×	×
	PEER IP ADDRESS 接続先(サーバー)のIPアドレス	×	○	×
4. シリアル インターフェース	シリアルインターフェース側の通信条件を設定します。			
	BAUD RATE 1200/2400/4800/9600/14400/19200/38400/57600/115200	○	○	○
	DATA BYTE 7bit or 8bit	○	○	○
	PARITY NONE or Even or Odd	○	○	○
	FLOW CTRL NONE or RTS/CTS	○	○	○

表示／操作項目	内容	T2S	COD	ATC
5. 動作モード	e z T C Pの動作モードを設定します。			
MUX TYPE	e z T C Pの動作モードです。 詳細は前述の「2. 3動作モード説明」を参照してください。 グレイ表示で現在動作しているファームウェアを示します。	—	—	—
TIME OUT	最後のデータを送信また受信した後、接続を切断するまでの秒数を指定します。WATER MARKが0の場合は、無視されます。	○	○	○
LOCAL PORT	自ローカルポート番号	○	×	×
PEER PORT	接続先（サーバー）のポート番号	×	○	×
WATER MARK	ここに指定されたバイト数をシリアル I / Fから受信した時点でサーバーに接続します。0の場合は、電源投入後、直ぐに接続します。	×	○	×
PASSWORD	設定値をパスワード保護します。	○	○	○
6. プロトコル選択	e z T C Pで使用するプロトコルを選択します			
EZCFG	ezCONFIG を使用するためのプロトコル。 <u>必ずチェックしてください。</u>			
ARP	ARP プロトコルをサポートします。	○	○	○
DHCP	DHCP プロトコルをサポートします。この場合 I Pアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイの設定は無効となります。	×	○	○
PPPoE	PPPoE をサポートします。この場合 I Pアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイの設定は無効となります。	×	○	○
TELNET	TELNET サーバ機能をサポートします。	○	×	○
HDLC FCS	サポートしていません。	×	×	×
7. 操作ボタン				
PROBE	LAN 上の e z T C Pを検索し、該当する e z T C Pの MACアドレスと設定情報を表示します。	○	○	○
READ	カレントで表示された e z T C Pの設定値を読み出します。	○	○	○
WRITE	設定値を e z T C PのEEPROMに書き込み、RESETします。	○	○	○
PPPoEID	PPPoE を使用する場合に、このボタンをクリックすると、IDとPASSWORD 入力のダイアログが表示されます。 ISP に接続するための ID と PASSWORD を設定します。 ID は最大 32 バイト、PASSWORD は最大 8 バイトまで設定できます。	×	○	○
STATUS	e z T C Pの内部情報が表示されます。(下図を参照してください)	○	○	○
EXIT	ezCONFIG を終了します。	○	○	○

図 4. 2-2 STATUS 情報表示画面

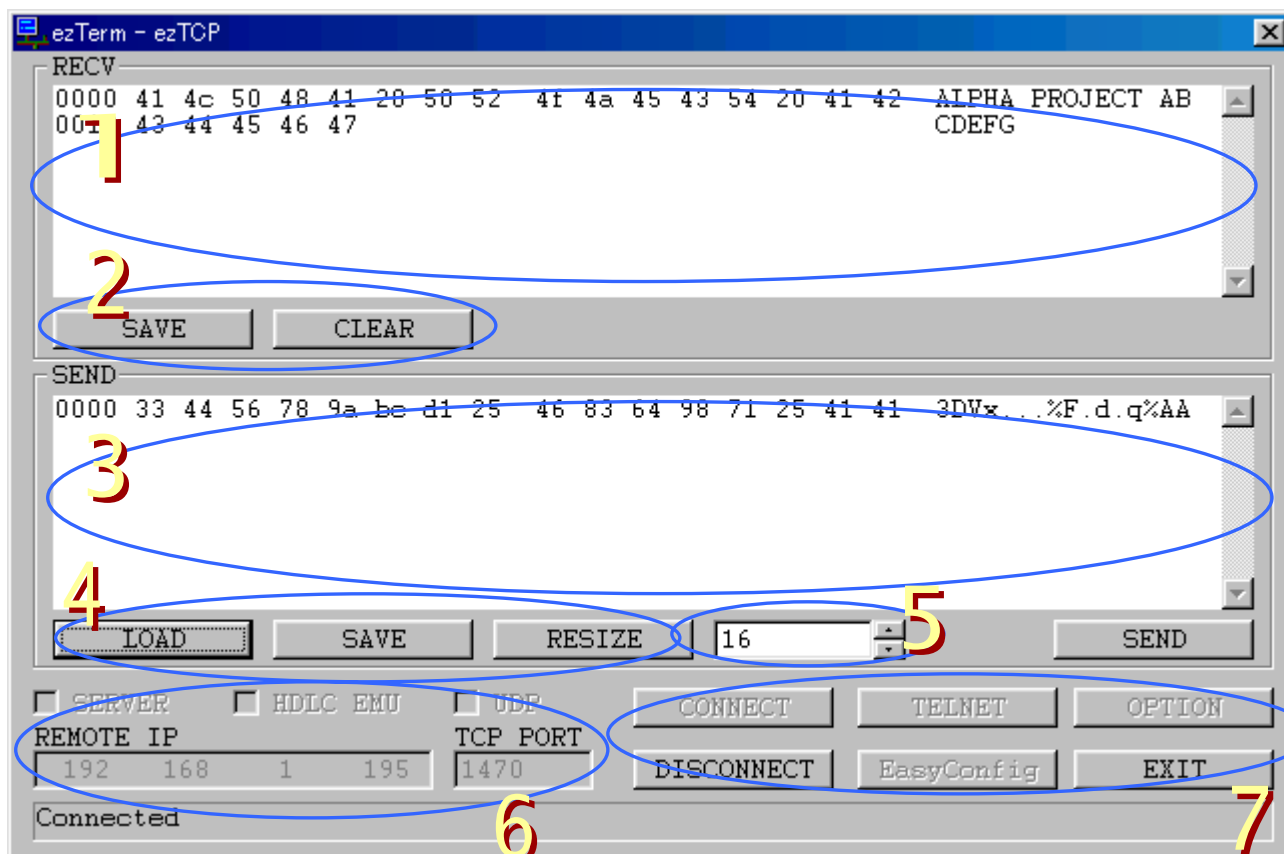


4. 3 e z T E R M (ezterm. exe) の使用方法

e z T E R M は、T C P / I P パケット通信用のターミナルソフトです。
 同様の機能が、Windows の標準添付ソフト「ハイパーターミナル」でも提供されていますが、e z T E R M では16進データが扱えるということと、サーバーモードが使用できるという特徴があります。
 e z T C P のテストツールとしてご利用ください。

4. 3. 1 e z T E R M の画面説明

図 4. 3-1 e z T E R M の画面



項目説明

表示／操作項目	内容	
1. 受信データ表示	e z T C P が受信したデータを表示します。	
2. SAVE/CLEAR	SAVE	受信データを BIN 形式ファイルで保存します。
	CLEAR	受信データ表示をクリアします。
3. 送信データ入力	送信データを16進(左側)またはASCII(右側)で入力します。 SEND ボタンをクリックするまでデータは送信されません。	
4. LOAD/SAVE/RESIZE	LOAD	送信データをファイルから読み込みます。読み可能な形式は BIN 形式ファイルです。
	SAVE	送信データを BIN 形式ファイルで保存します。
	RESIZE	指定された送信パケットサイズを設定します。
5. 送信パケットサイズ	送信パケットサイズをバイト数で設定します。 RESIZE ボタンをクリックするまで有効になりません。	

6. ネットワーク設定	SERVER	e z T C Pがクライアント(COD, ATC モード)として動作する場合にチェックします。
	REMOTE IP	e z T C Pの I Pアドレスを指定します。
	TCP PORT	e z T C Pのポート番号を指定します。
7. 接続	CONNECT (LISTEN)	e z T C Pに接続します。SERVER がチェックされている場合には、LISTEN になり、接続待ち状態になります。
	DISCONNECT	e z T C Pとの接続を切断します。
	TELNET	クリックすると TELNET ターミナルウィンドウが開き、TELNET コマンドの入力ができます。
	EasyConfig	現在のところ、機能提供されていません。
	OPTION	現在のところ、機能提供されていません。
	EXIT	プログラムを終了します。

4. 3. 2 e z T E R Mの操作方法

e z T E R Mは下記の手順にて操作します。うまく動作しない場合には「5. チュートリアル」を参考にしてください。

- ①パソコンと e z T C Pを L A Nで接続し、電源を入れます。
- ②e z T E R M (ezterm.exe) を実行します。
- ③パケットサイズを指定して、RESIZE ボタンをクリックします。
- ④e z T E R Mをクライアントとする場合には、REMOTE IP と TCP PORT を設定し、CONNECT ボタンをクリックします。

すると画面左下に Connected と表示されます。

e z T E R Mをサーバーとする場合には、SERVER をチェックし、LISTEN をクリックするとクライアントからの接続待ち状態になります。

●データを送信する場合

- ⑤送信データのデフォルトが 00 になっているので、送信データを 1 6 進または A S C I I で入力して SEND ボタンをクリ

ッ

クすると、データが送信されます。

- ⑥e z T C Pのシリアルポートに送信データが出力されます。

●データを受信する場合

- ⑤シリアルポート側より、送信データを送ります。

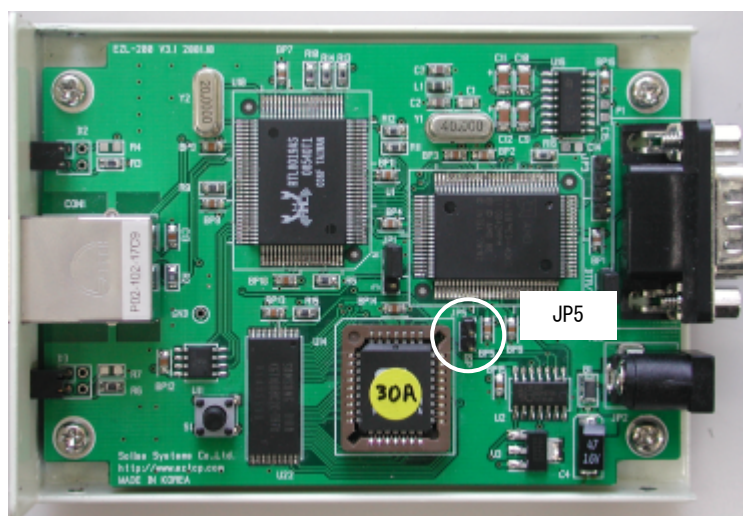
- ⑥e z T E R Mの受信データ表示部に受信データが表示されます。

4. 3 HotFlash (hotflash.exe) の使用方法

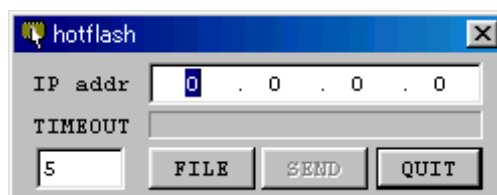
HotFlashは、ezTCPのファームウェアをダウンロードするためのソフトウェアです。
EzL-200のバージョンアップに使用します。バージョンアップデータは弊社ホームページよりダウンロードできます。

4. 3. 1 ファームウェアの書き換え手順

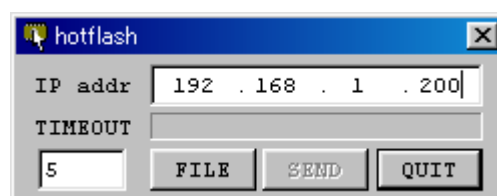
EzL-200をISPモード（プログラミングモード）にします。
プログラミングモードにするためには、EzL-200の筐体の上カバーを外し、基板上的ジャンパSW（JP5）を短絡します。



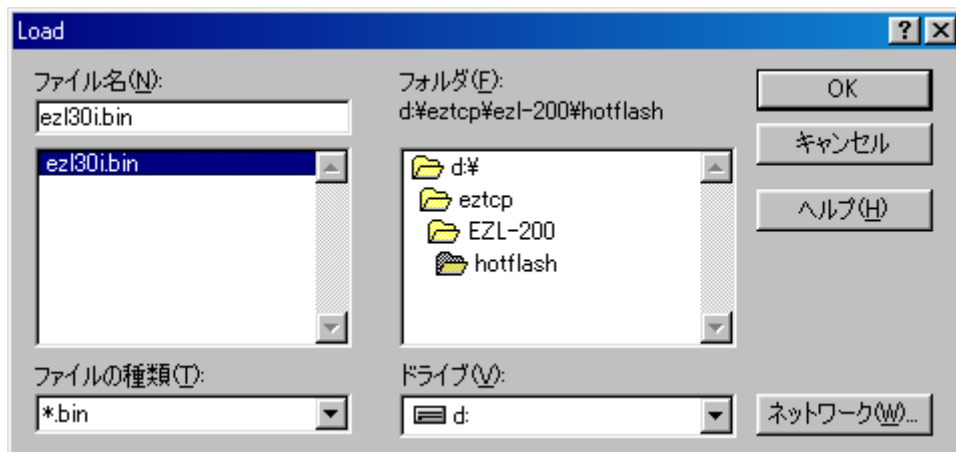
②Hotflash.exe を実行し立ち上げます。



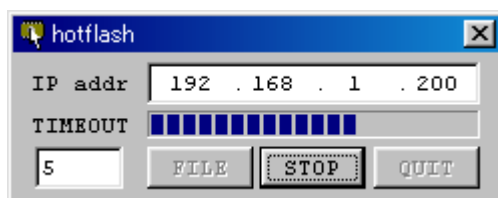
③ファームウェアの書き換えを行うezTCPのIPアドレスを入力します。
ezTCPのIPアドレスがわからない場合にはezCONFIGのPEOBEボタンをクリックすれば調べることができます。



④次に FILE ボタンをクリックし、ダウンロードするファイルを選択します。



⑤次にファイルをダウンロードします。SENDボタンをクリックしてください。



⑥OKのダイアログが表示されれば、書き換え終了です。EZL-200の基板上のジャンパSW (JP5) を元に戻し、EZL-200の筐体のカバーを取り付けてください。

⑦ezCONFIGで、IPアドレスと通信条件の設定をおこなってください。

4. チュートリアル

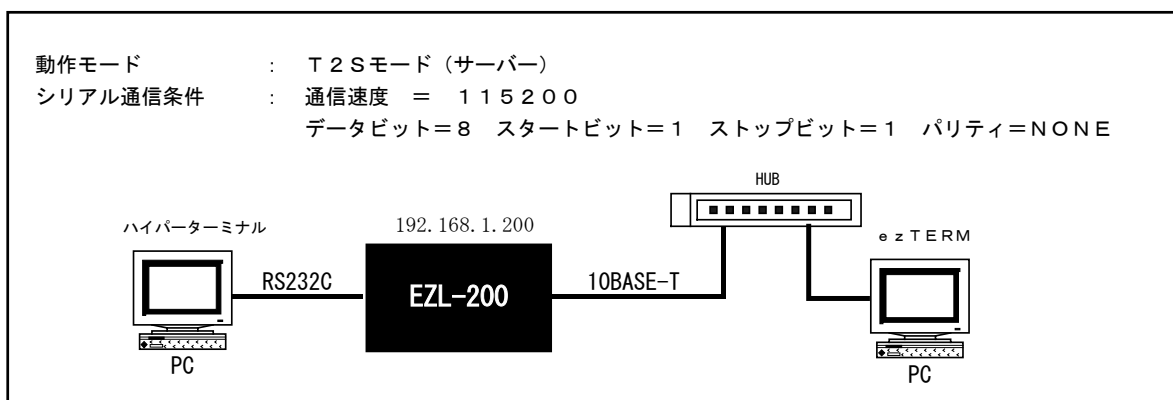
各使用方法の説明では、便宜上、パソコン対パソコンの通信で解説していますが、実際にお客様のシステムでお使いの場合でも基本的な使用方法は変わりませんので参考にしてください。

4. 1 LANに接続して使用する

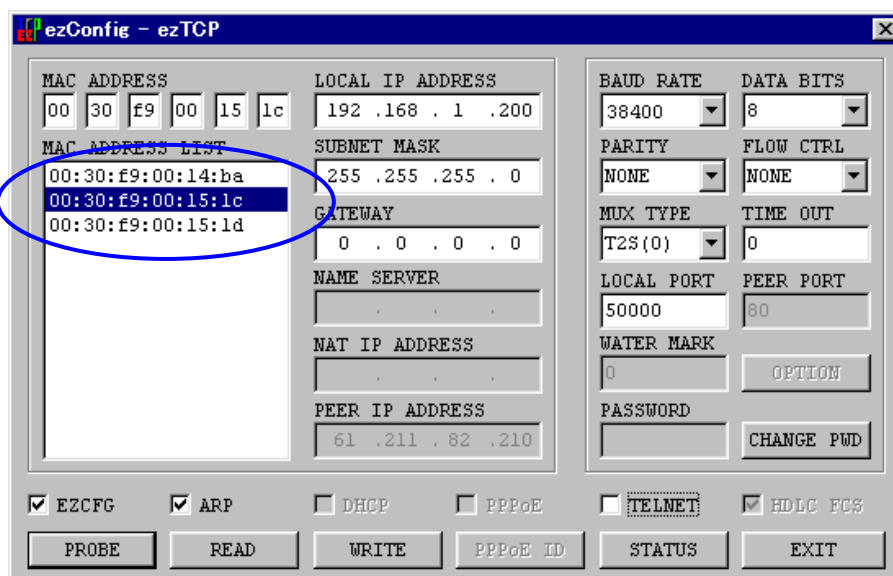
最も一般的な使用として、LANに接続して使用方法を解説します。

①EZL-200の設定

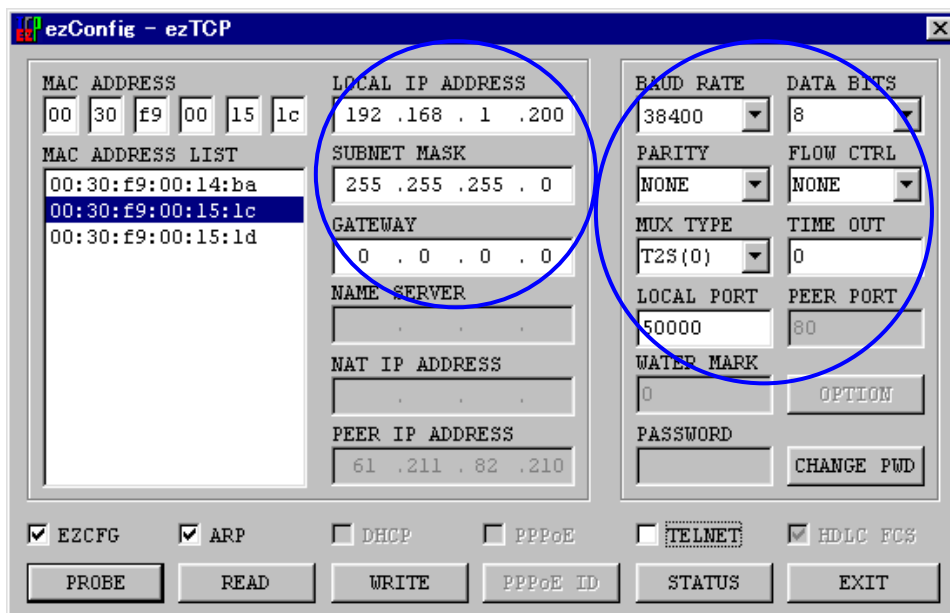
①-1 EZL-200のLANポートとCOMポートにそれぞれPCを接続します。



①-2 次にEZL-200の電源を投入します。LINK LEDが点灯し、STATUS LEDが点滅します。そこでezCONFIG (ezcfg.exe)を起動し、PROBEボタンをクリックします。すると「Serching ezTCP. . .」と表示され、LAN上に存在するezTCPのMACアドレス一覧が表示されます。



- ①-3 次にIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定します。
これらの値はネットワーク管理者と相談して、事前に決めておいてください。
IPアドレスは、LAN上で重複しないアドレスを指定してください。サブネットマスクとゲートウェイがわからない場合には、サブネットマスク=255.255.255.0、ゲートウェイ=0.0.0.0にすれば、ほとんどの場合、問題ありません。
- ①-4 次にシリアルインターフェースの通信条件を設定します。各値を通信条件に合わせて設定してください。
TIMEOUTとLOCAL PORTは、特に必要がない限りデフォルト値でかまいません。

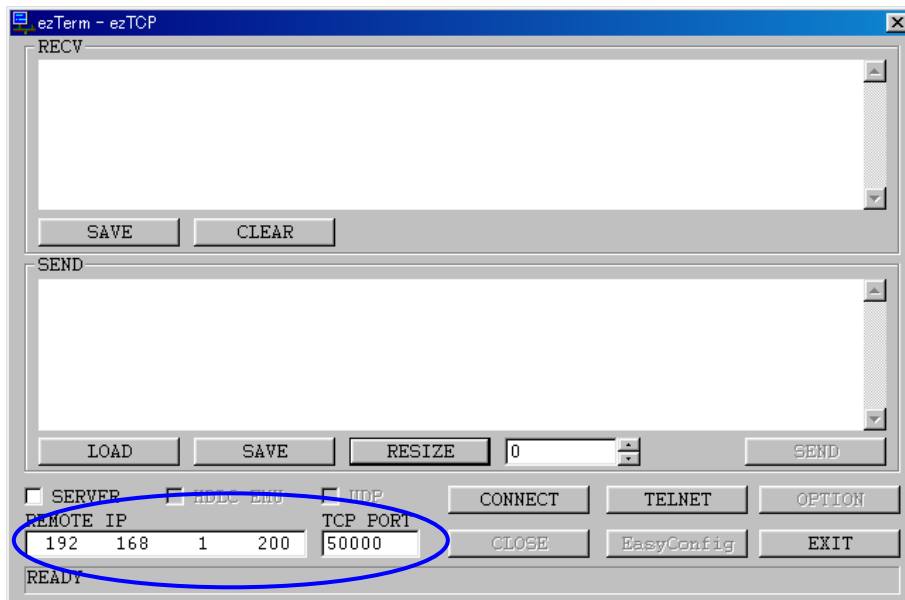


- ①-5 設定値を書き込みます。WRITE ボタンをクリックしてください。以上で設定が完了しました。

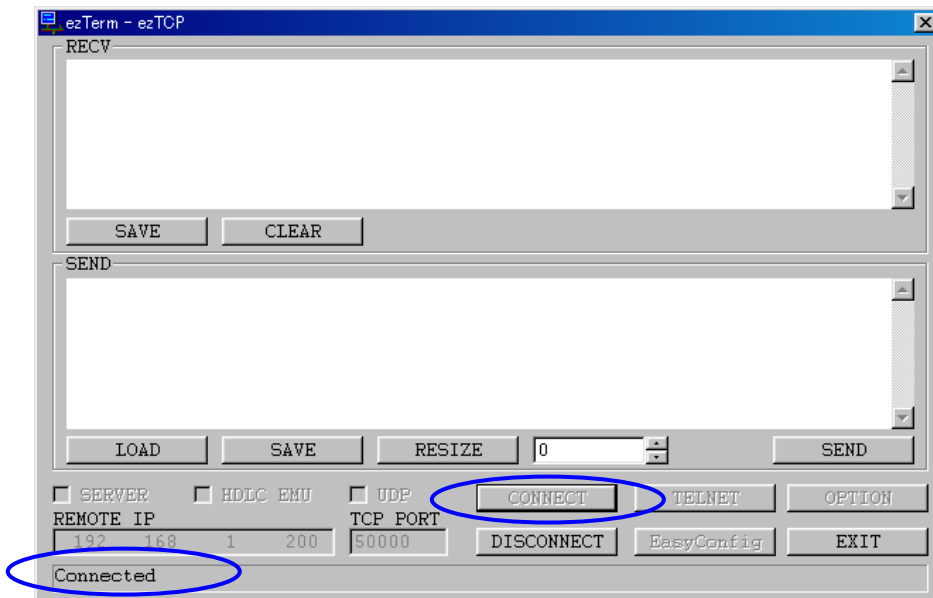
② 通信の確認

②-1 e z T E R Mでパソコンと通信の確認をします。

まず、LAN側のパソコンでe z T E R Mを起動し、e z T C PのIPアドレス(REMOTE IP)とポート番号(TCP PORT)を設定します、



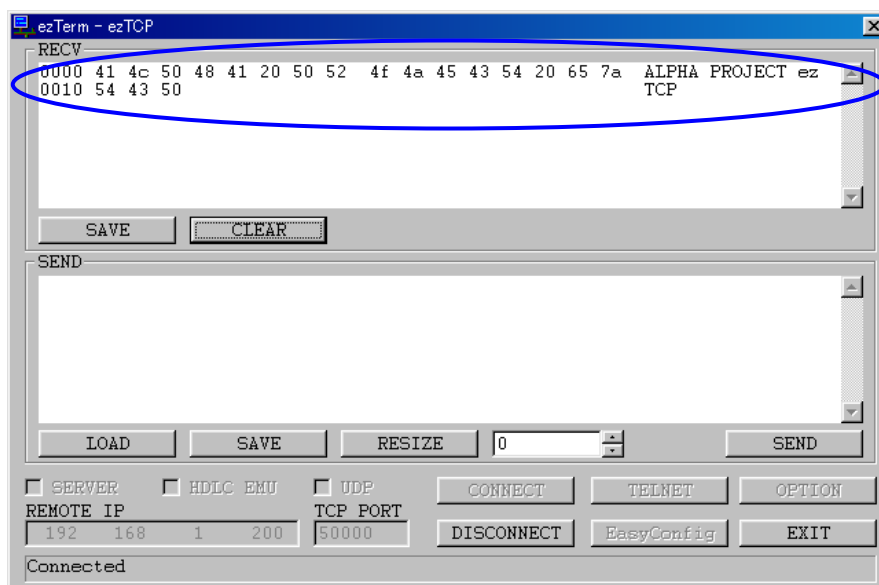
②-2 次に CONNECT ボタンをクリックします。左下の Ready が Connected に変われば、e z T C P と接続が成功しました。(Connecting.....が表示されたままの場合や Unknown network error が表示された場合には、正しく接続されておりませんので、e z T C P の電源や、IP アドレス等の設定を確認してください)



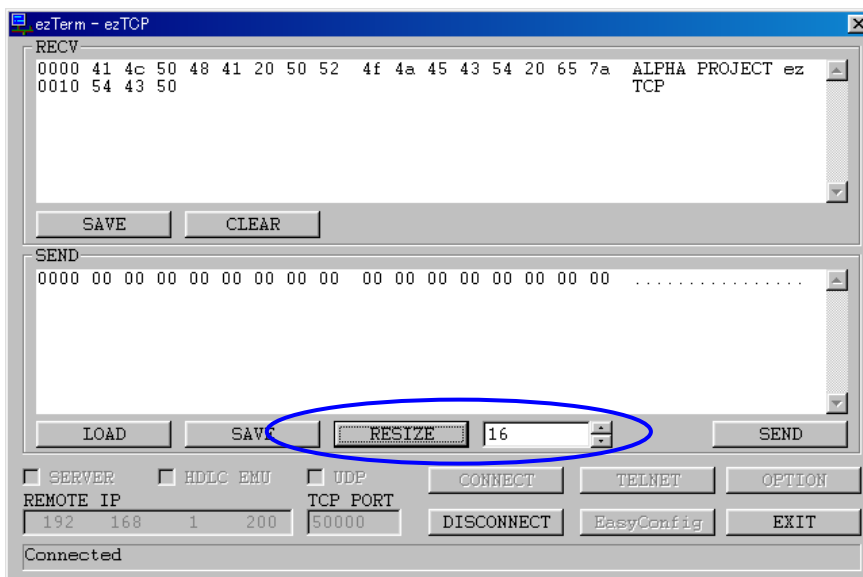
②-3 次にRS232C側のパソコンで、Windows 付属のハイパーターミナルを起動し、通信条件を設定します。



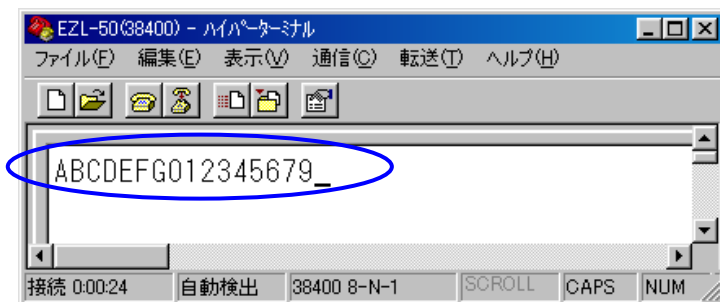
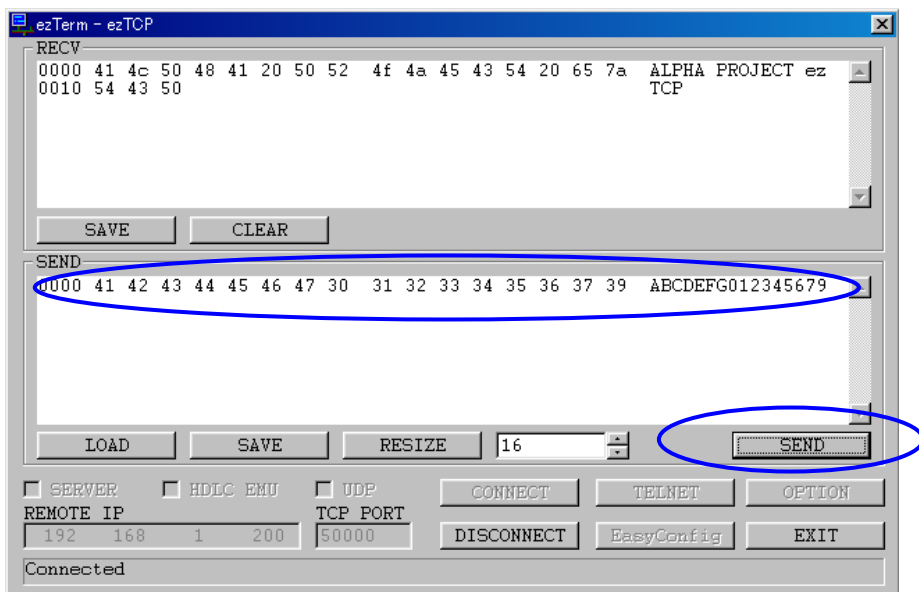
②-4 設定が終わったら、ハイパーターミナルよりデータを送信してみます。適当な文字列を入力してください。すると、ezTERMの受信表示 (RECV) に受信データが表示されます。



- ②-5 次に e z T E R Mよりデータを送信してみます。
e z T E R Mの送信パケットサイズに適切な値を入力して RESIZE ボタンをクリックします。すると、送信データ部 (SEND)に 00 が表示されます。



- ②-6 次に適切な値を 1 6 進 (左側) もしくは A S C I I (右側) で入力し、SEND ボタンをクリックします。すると、ハイパーターミナルの画面に e z T E R Mより受信したデータが表示されます。



4. 2 仮想COMポートドライバと併用する

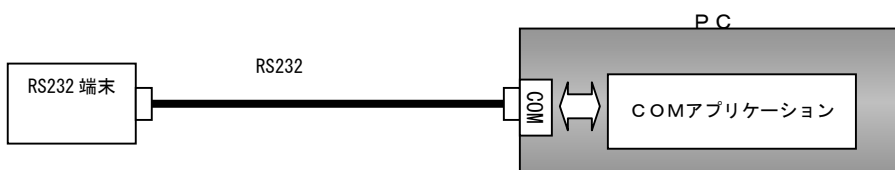
ezTCPシリーズのオプションソフトウェア「Serial/IP」を利用すると、ezTCPをPCの標準COMポートと同じように扱うことができます。したがって、PCで動作する既存のCOMポートアプリケーションを変更することなく、ネットワークに対応させることができます。1台のパソコンで最大255ポートのCOMポートをアサインすることができます。

「Serial/IP」は、Tactical Software社の汎用COMリダイレクトソフトウェアで、ezTCP以外にも使用することができます。

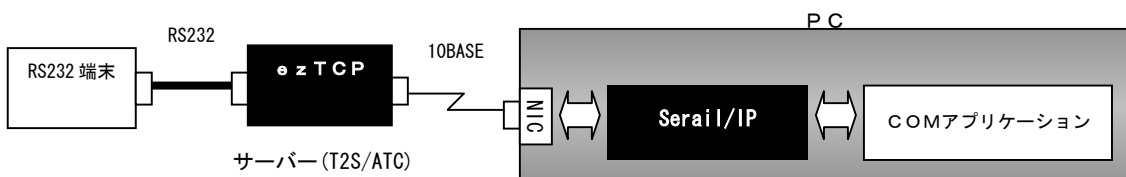
弊社ホームページより、無償評価版（30日間）をダウンロードできますので、是非ご利用ください。

<Serial/IPの動作イメージ>

既存システム（RS232）での動作

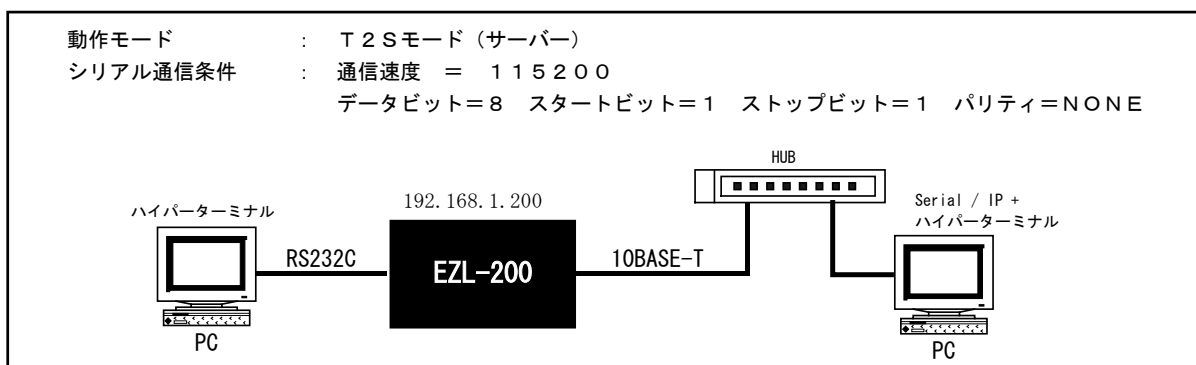


ezTCP + Serial/IPでの動作



①EZL-200の設定

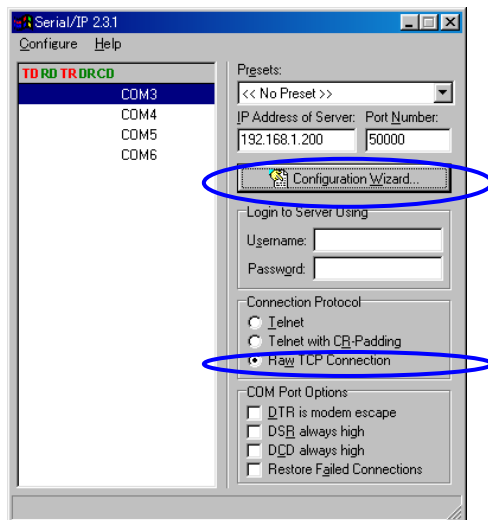
前述の「5. 2 LANに接続して使用する」を参照して、同じ手順で設定してください。



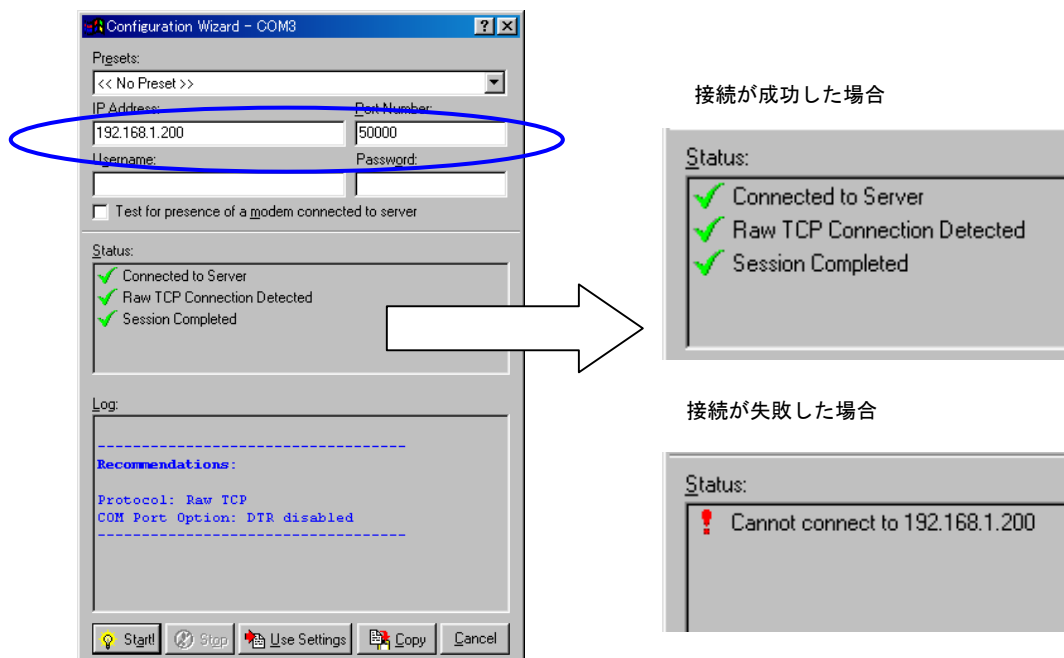
②Serial/IPの設定

- ②-1 Serial/IPをインストールしてください。setup.exe をクリックするとインストーラが起動しますので、表示にしたがって、名前やシリアル番号等の事項を入力すればインストールは終了します。インストール終了後、パソコンを再起動してください。（インストールの詳細は、Serial/IPのオンラインマニュアル等を参照してください）

- ②-2 パソコンの再起動後、「スタートメニュー」→「プログラム」からSerial/IP (Serial-IP Manager)を起動します。すると次のようなメイン画面が表示されます。ここで、Configuration Wizard ボタンをクリックします。Serial/IP がタスクバー上のみに表示されている場合には、タスクバー上で右クリックすると画面が表示されます。



- ②-3 Configuration Wizard 画面が表示されますので、COMポートにアサインするezTCPのIPアドレスとポート番号を入力し、Start ボタンをクリックします。すると Status 表示に接続状況が表示されます。接続が失敗した場合には、IPアドレスや、ezTCPの設定を再度確認してください。接続が成功した場合には、Use Setting ボタンをクリックして、画面を閉じてください。



- ②-4 以上でezTCPがCOMポートとして認識されます。上記の例ではCOM3にアサインしていますが、メイン画面のConfigureメニューのSelect Portより複数のCOMポートを選択して、それぞれのCOMポートに任意のezTCPをアサインすることができます。(最大255ポート)
ConfigureメニューのRun on Windows Start をチェックしておけば、Windows 起動時に自動的にezTCPに接続されます。

③ 通信の確認

③-1 ハイパーターミナルで通信の確認をします。

各々のパソコン上で Windows 付属のハイパーターミナルを起動し、通信条件を設定します。

なお、Windows 付属のハイパーターミナルでは COM1～COM4 までしか選択できませんので、COM5 以降をテストする場合には、フリーのターミナルソフトなどをご利用ください。



③-2 ターミナル画面が表示されたら、適当な文字列を入力してください。

相手側の画面に送信文字列が表示されればOKです。

③-3 お客様の使用されるCOMポートアプリケーションで動作を確認してください。

使用するアプリケーションによっては動作しない場合もありますので注意してください。

<使用できないアプリケーション>

- ・シリアルポート側のボーレートが動的に変更されるアプリケーション
- ・RTS・CTSの制御線を本来の目的とは異なり、データ線等に利用するアプリケーション
- ・送受信データのバッファリングが許容されないアプリケーション
- ・その他 仮想COMポートを正しく認識することができないアプリケーション

4. 3 ADSLに接続して使用する

EZL-200は、プロトコルとしてPPPoE(PPP Over Ethernet)をサポートしています。

PPPoEは、主にADSLで採用されているプロトコル規格です。EZL-200を利用すればルーター無しで、ADSLモデムと直結することができます。(ルーターを使用する場合には、前述の「5. 2 LANに接続して使用する」をご覧ください。)

PPPoEは、CODモードまたはATCモード(クライアント)でサポートされます。

ADSL回線 : フレッツADSL 1.5M (NTT西日本)
 ADSLモデム : DSL SB ATUR-E1 (NTT西日本)
 ISP : WAKWAK (NTT-ME)

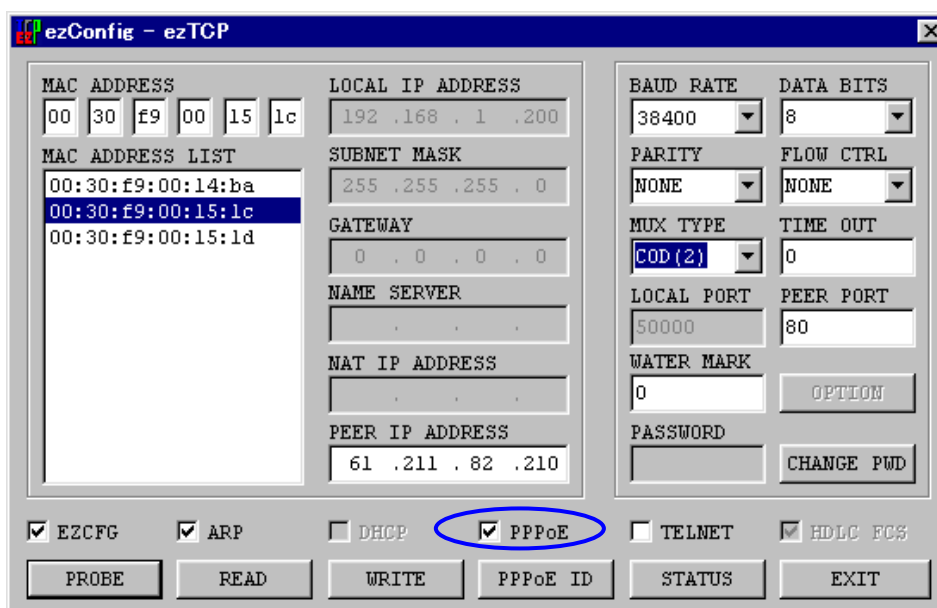
弊社では、PPPoEの確認に上記の回線とISPにて動作確認をしております。

その他の回線業者およびISPをご利用の場合、動作しない場合もありますので、十分ご確認ください。

① EZL-200の設定

①-1 EZL-200のLANポートにPCを接続し、EZL-200の電源を投入します。

①-2 ezCONFIGを起動しPROBE ボタンをクリックします、するとLAN上に存在するezTCPの情報が表示されます。ezTCPが複数ある場合、MAC ADDRESS LIST から該当するMACアドレスを選択し、「PPPoE」チェックボックスを有効にします。



- ①-3 「PEER IP ADDRESS」と「PEER PORT」に接続先のIPアドレスとポート番号を入力します。
ここでは、テストとして、弊社のWWWサーバーのIPとポート番号を入力しています。

ezConfig - ezTCP

MAC ADDRESS	LOCAL IP ADDRESS	BAUD RATE	DATA BITS
00 30 f9 00 15 1c	192 .168 .1 .200	38400	8
MAC ADDRESS LIST	SUBNET MASK	PARITY	FLOW CTRL
00:30:f9:00:14:ba	255 .255 .255 .0	NONE	NONE
00:30:f9:00:15:1c	GATEWAY	MUX TYPE	TIME OUT
00:30:f9:00:15:1d	0 .0 .0 .0	COD(2)	0
	NAME SERVER	LOCAL PORT	PEER PORT
		50000	80
	NAT IP ADDRESS	WATER MARK	
		0	OPTION
	PEER IP ADDRESS	PASSWORD	CHANGE PWD
	61 .211 .82 .210		

EZCFG ARP DHCP PPPoE TELNET HDLC FCS

PROBE READ WRITE PPPoE ID STATUS EXIT

- ①-4 シリアルインターフェースの通信条件を設定します。「TIME OUT」と「WATER MARK」は0としてください。

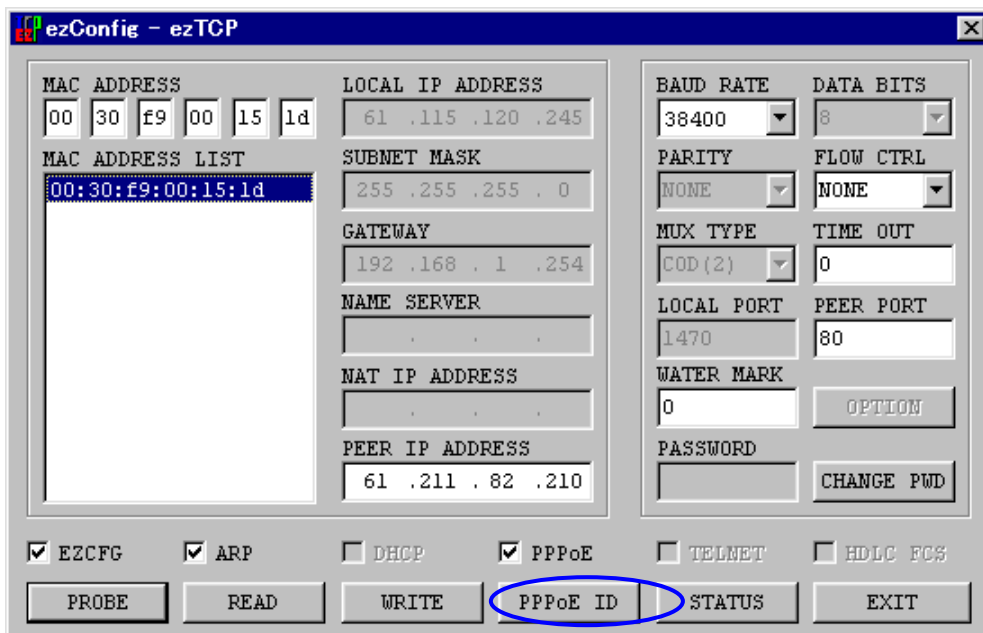
ezConfig - ezTCP

MAC ADDRESS	LOCAL IP ADDRESS	BAUD RATE	DATA BITS
00 30 f9 00 15 1c	192 .168 .1 .200	38400	8
MAC ADDRESS LIST	SUBNET MASK	PARITY	FLOW CTRL
00:30:f9:00:14:ba	255 .255 .255 .0	NONE	NONE
00:30:f9:00:15:1c	GATEWAY	MUX TYPE	TIME OUT
00:30:f9:00:15:1d	0 .0 .0 .0	COD(2)	0
	NAME SERVER	LOCAL PORT	PEER PORT
		50000	80
	NAT IP ADDRESS	WATER MARK	
		0	OPTION
	PEER IP ADDRESS	PASSWORD	CHANGE PWD
	61 .211 .82 .210		

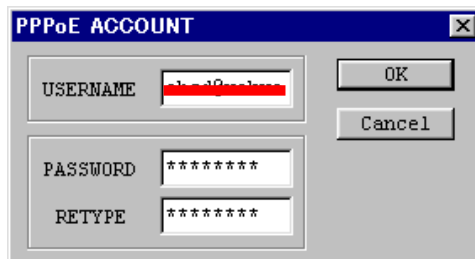
EZCFG ARP DHCP PPPoE TELNET HDLC FCS

PROBE READ WRITE PPPoE ID STATUS EXIT

- ①-5 次に PPPoE のユーザー設定を行います。PPPoE ID ボタンをクリックしてください。



- ①-6 ユーザー設定用のダイアログが表示されますので、「USERNAME」と「PASSWORD」を入力してください。パスワード確認のために「RETYPE」には「PASSWORD」と同じものを入力してください。入力が完了したならばOKボタンを押してください。
※「PASSWORD」は最大8文字、「USERNAME」は最大32文字入力できます。



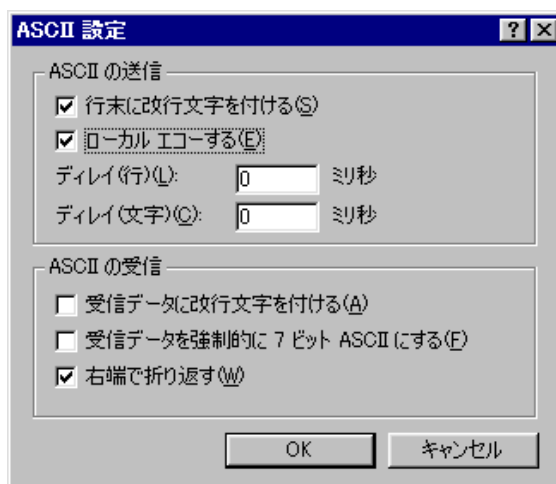
- ①-7 最後に設定値を ezTCP に書き込みます。WRITE ボタンをクリックしてください。以上で設定は終了です。

②接続の確認

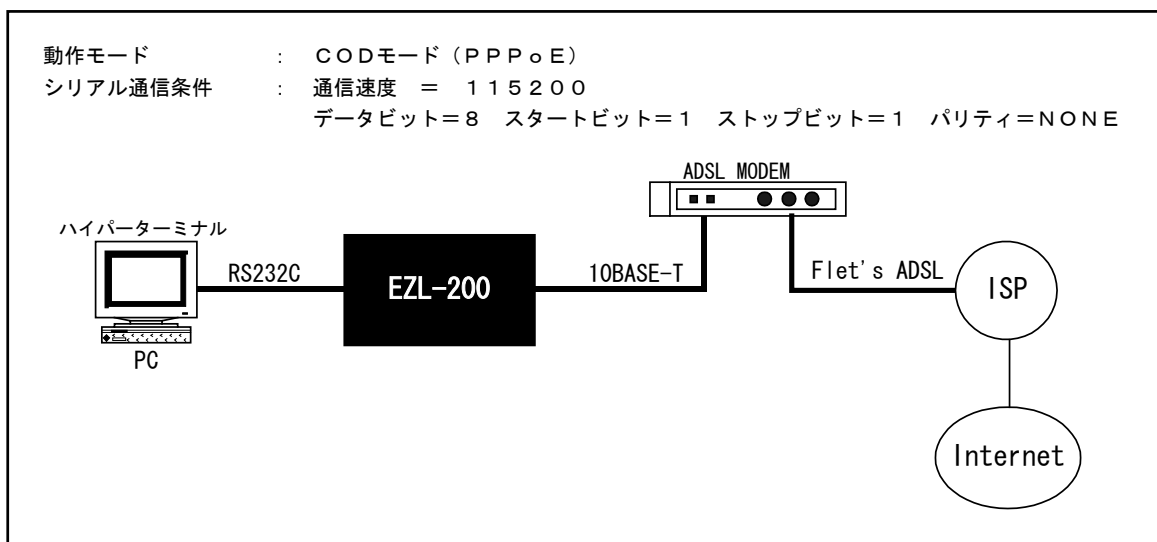
ここではPPP o E接続確認のため、インターネット上のHTML文書を読み込む例を示します。

先の設定で、弊社のWWWサーバーとポート番号を設定しましたので、弊社のWWWサーバーからHTML文書を読み込んでみます。

- ②-1 まずPC側のターミナルソフトの設定を行います。ここではハイパーターミナルを使用します。
ハイパーターミナルの通信速度とフロー制御を ezConfig で設定した値に合わせて設定してください。
また、『プロパティ』→『設定』→『ASCII 設定』は以下のように「行末に改行文字を付ける」と「ローカルエコーする」にチェックを入れてください。



- ②-2 全ての設定が終了したら ezTCP の LANポートを ADSL モデムに、COMポートを PC に接続してください。

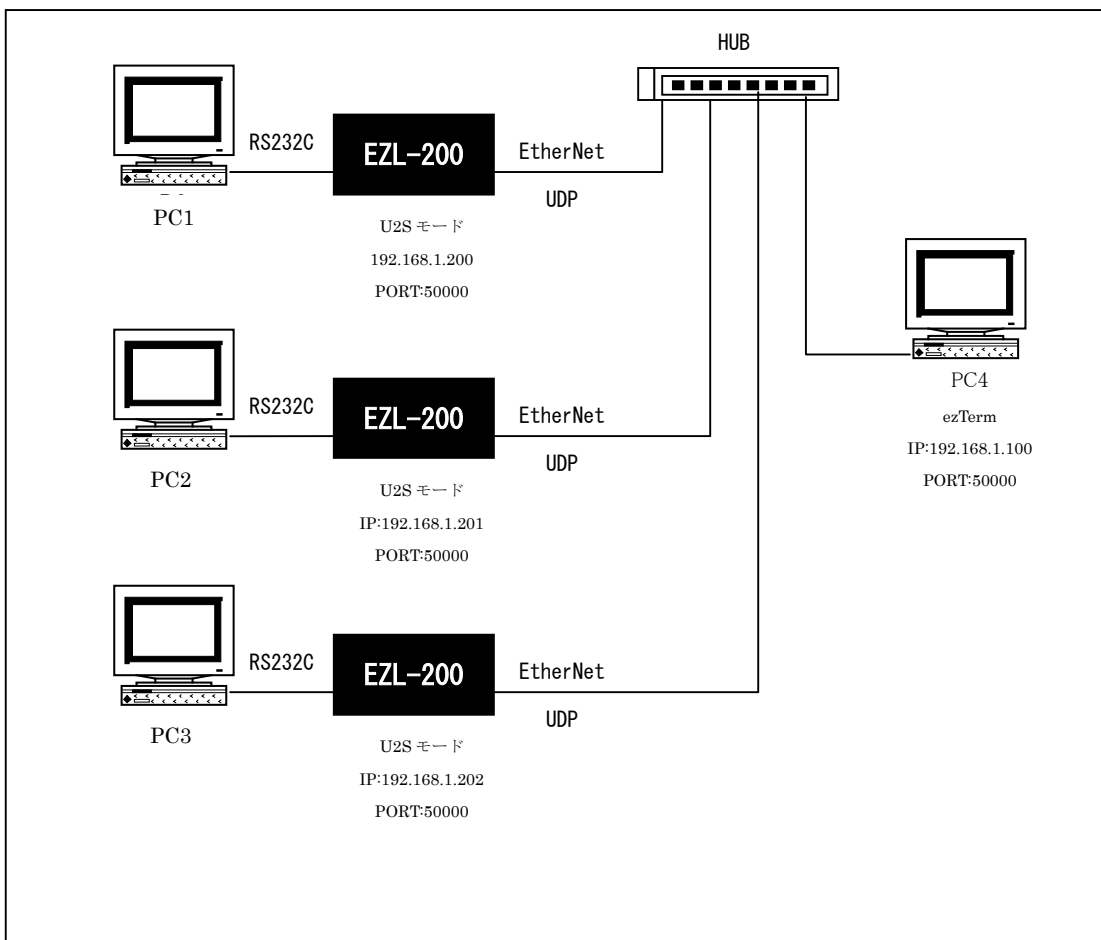


4. 4 複数の機器間で通信する

EZL-200は、プロトコルとしてUDP(User Datagram Protocol)をサポートしています。
 UDPプロトコルにて相手先IPアドレスにブロードキャストアドレスを使用することにより、複数のEZL-200へデータを送信することが可能となります。また、EZL-200がブロードキャストアドレスを持ったUDPパケットを受信することもできます。
 これにより複数のEZL-200間でデータの送受信を行うことが可能となります。

ここでは3台のEZL-200とezTermで通信を行う例を示します。

EZL-200とPCを以下のように接続します。



①EZL-200の設定

3台のEZL-200に対して以下の設定を行います。

- ①-1 ezCONFIGを起動し「PROBE」ボタンをクリックします、するとLAN上に存在するezTCPの情報が表示されます。ezTCPが複数ある場合、「MAC ADDRESS LIST」から該当するMACアドレスを選択してください。選択後、「MUX TYPE」項目から「U2S」を選択します。

The screenshot shows the 'ezConfig - ezTCP' window. The 'MAC ADDRESS' field is set to '00 30 f9 00 1b 3e'. The 'MAC ADDRESS LIST' contains three entries: '00:30:f9:00:14:da', '00:30:f9:00:15:1d', and '00:30:f9:00:1b:3e'. The 'LOCAL IP ADDRESS' is '192 168 1 200', 'SUBNET MASK' is '255 255 255 0', and 'GATEWAY' is '0 0 0 0'. The 'PEER IP ADDRESS' is '255 255 255 255'. The 'MUX TYPE' is set to 'U2S(3)'. Other settings include 'BAUD RATE' 38400, 'DATA BITS' 8, 'PARITY' NONE, 'FLOW CTRL' NONE, 'LOCAL PORT' 50000, and 'PEER PORT' 50000. The 'EZCFG', 'ARP', 'TELNET', and 'HDLC FCS' checkboxes are checked. The 'PROBE' button is highlighted.

- ①-2 「LOCAL IP ADDRESS」、「LOCAL IP PORT」、「PEER IP ADDRESS」、「PEER IP PORT」を設定します。

「LOCAL IP ADDRESS」は機器ごとに違う値を設定します。ここでは3台のEZL-200に

「192.168.1.200」、「192.168.1.201」、「192.168.1.202」をそれぞれ割り当てています。

「PEER IP ADDRESS」はブロードキャストアドレスである「255.255.255.255」を設定し、「LOCAL PORT」と「PEER PORT」は同じ値の「50000」に設定します。

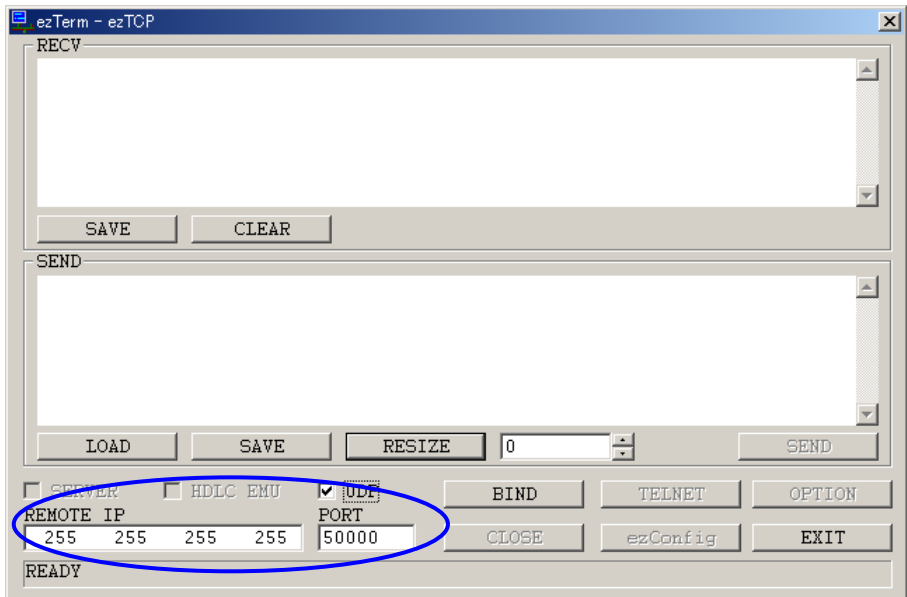
最後に「WRITE」ボタンをクリックして設定を保存してください。

The screenshot shows the 'ezConfig - ezTCP' window with the same settings as the previous screenshot. The 'LOCAL IP ADDRESS' field is now '192 168 1 200', 'LOCAL PORT' is '50000', 'PEER IP ADDRESS' is '255 255 255 255', and 'PEER PORT' is '50000'. The 'WRITE' button is highlighted.

② e z T E R M の設定

②-1 e z T E R M の設定を行います。

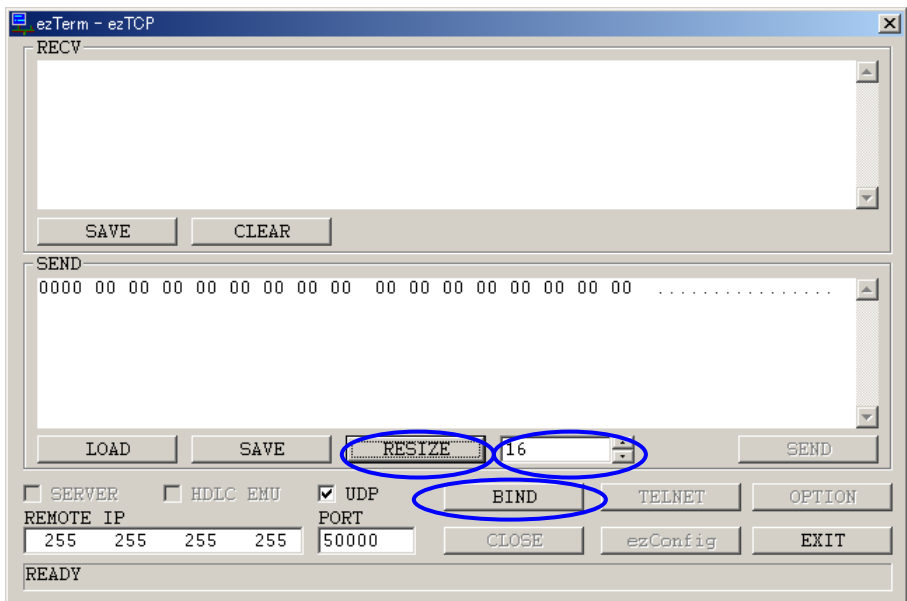
まず、P C 4 にて e z T E R M を起動して e z T C P の I P アドレス (R E M O T E I P) を 255.255.255.255、ポート番号 (P O R T) を 50000 設定し、「U D P」チェックボックスをチェックしてください。



②-2 次に送信を行うためのパケットサイズを設定します。

「RESIZE」の右側にあるエディットボックスに適当な値を入力してください。この例では16を設定しています。設定後に「RESIZE」ボタンを押してください。

最後に「BIND」ボタンをクリックします。これによりU D P の送受信が可能となります。



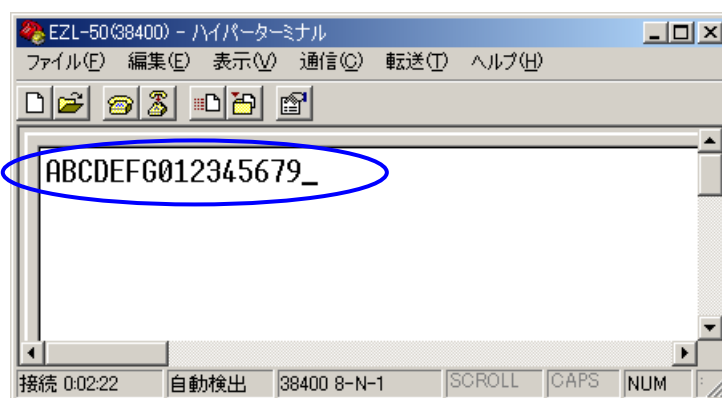
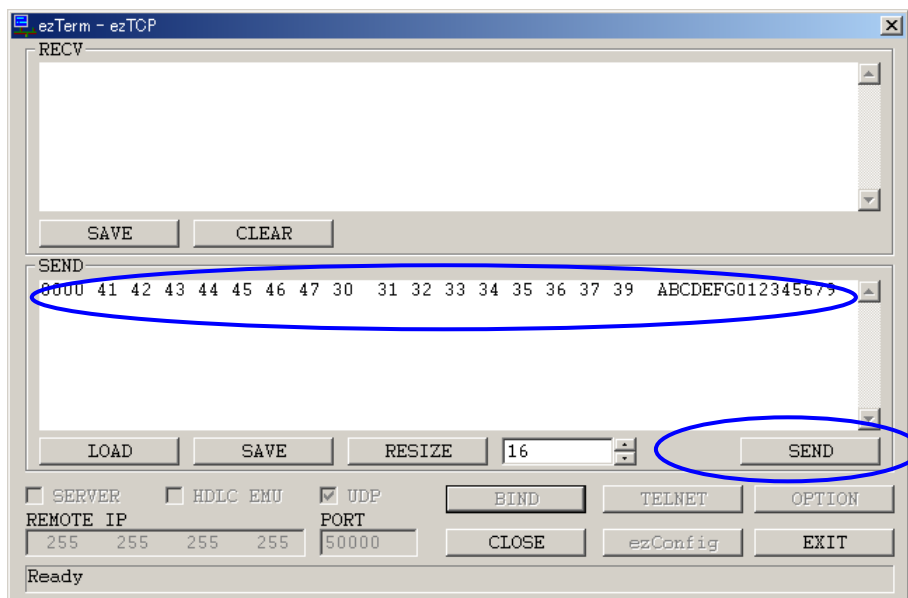
③ハイパーターミナルの設定

③-1 PC1～PC3パソコンで、Windows 付属のハイパーターミナルを起動し、通信条件を設定します。

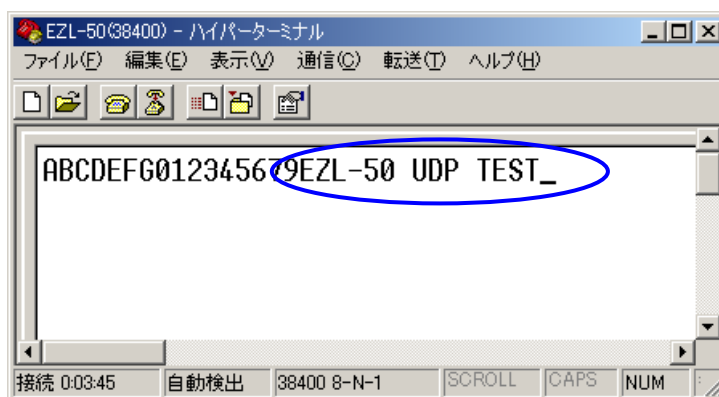
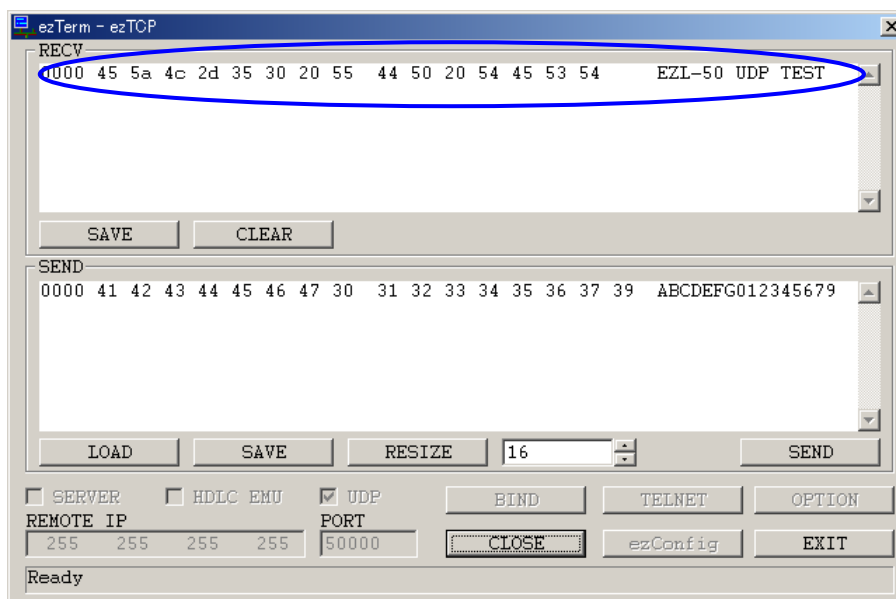


④通信の確認

- ④-1 e z T E R Mにて適当な値を16進(左側)もしくはASCII(右側)で入力し、SENDボタンをクリックします。すると、PC1~PC3のハイパーターミナルの画面にe z T E R Mより受信したデータが表示されます。



- ④-2 次に PC 1 のハイパーターミナルからデータの送信を行います。
すると、PC 2、PC 3 のハイパーターミナル及び PC 4 の e z T E R M にデータが受信されます。



- ④-3 同様に PC 2、PC 3 から送信したデータも他の EZL-200 及び e z T E R M にて受信できます。
このように複数の EZL-200 にて同時にデータの通信を行うことが可能となります。

5. その他

5. 1 トラブルシューティング

Q 1. ezCONFIGでPROBEボタンをクリックしてもezTCPが表示されない。

A 1. 次のような原因が考えられます。

- ① ハードウェアが正しく接続されていない → ハードウェアを再度確認してください。
- ② ezCONFIGでEZCFGプロトコルを非アクティブにして書き込んでしまった。 → 弊社までご連絡ください。
- ③ 使用しているケーブルが違う → ストレートケーブルかクロスケーブルが接続方法に合ったケーブルを使用しているか確認してください。

Q 2. ezTCPに接続できない。

A 2. さまざまな原因が考えられますが、以下の点について再度確認してください。

- ① IPアドレスが異なる
- ② ゲートウェイ値が正しくない。
- ③ サブネットマスク値が正しくない。
- ④ 接続モードが異なる（サーバー/クライアント）

①～③についてはネットワーク管理者に相談して、確認してください。

④については、本マニュアルの動作モード、チュートリアル等を再度ご覧になって使用方法を確認してください。

Q 3. 接続が不安定または、通信が不安定になる。

A 3. IPアドレスが競合している可能性があります。

ネットワーク上に同一IPの機器が接続されていないか確認してください。

Q 4. Serial/IPを、クライアントのezTCPに接続できないか？

A 4. Serial/IPは、クライアント型のソフトウェアです。したがって、ezTCPはサーバーモード（T2S、ATC（サーバー））にする必要があります。

Q 5. PPPoEでISPのPASSWORDが8バイトを超えているため設定できない。

A 5. 一般的なISPでは、PASSWORDの変更が可能です。

8バイト以内のPASSWORDに変更してご利用ください。

Q 6. PPPoEに接続したままで接続先（ピアIPアドレス）を変更できないか？

A 6. EZL-200は仕様上できません。

Q 7. ATCモードでATDを実行すると「NO CARRIER」が返される。

A 7. ezTCPへの送信データのデリミタが<CR>以外になっている可能性があります。

また、ADSLモデムが正常に動作していない場合やLANの接続が正しくない場合なども考えられます。

5. 2 ネットワーク用語解説

<u>TCP</u> (Transmission control protocol)	2種類あるIPの上位プロトコルのひとつ。もうひとつのUDPに比べ、コネクション型でパケット毎の応答確認機能等があり信頼性が高い。RFC 793で規定。
<u>IP</u> (Internet protocol)	米国防総省のネットワークプロジェクトで開発されたプロトコルで、インターネットに接続される機器は、全てこの共通プロトコルを使用している。上位層にはTCPやUDP等がある。
<u>TCP/IP</u>	ネットワーク層にIP、上位にTCPを使うプロトコルの名称。インターネットの標準プロトコルである。上位のアプリケーション層のプロトコルとしては、HTTP、FTP、TELNET、SMTP、DNS、SNMP等がある。
<u>UDP</u> (User datagram protocol)	IPの上位プロトコルのひとつ。RFC 768で規定。TCPに比べ処理の負荷が軽いため、高速処理が可能だが、コネクションレス型で信頼性に劣る。
<u>ICMP</u>	IPプロトコルの状態に関する情報を管理するプロトコル。PING等の応答に使われる。
<u>PING</u>	TCP/IPネットワーク上の任意のコンピュータに対して接続を確認するためのコマンド。
<u>ARP</u> (Address resolution protocol)	アドレス解決プロトコル。IPアドレスから、MACアドレスを取得するためのプロトコル。逆にMACアドレスからIPアドレスを取得するプロトコルはRARPと呼ばれる。
<u>TELNET</u>	ネットワーク上の他のコンピュータに接続して遠隔操作を実現するためのプロトコル。
<u>FTP</u> (File transfer protocol)	インターネット上の2点間でファイル転送を行うためのプロトコル。RFC 959で規定。
<u>LAN</u> (Local Area Network)	会社内などのある限定された範囲内のネットワーク。最近ではイーサネットなどの技術そのものをLANと呼ぶ場合がある。
<u>WAN</u> (Wide Area Network)	限定されたエリアを超えて接続される広域ネットワーク。LANの対比語としても用いられる。
<u>PPP</u> (Point To Point Protocol)	2点間の通信に使用するプロトコル。インターネットプロバイダとダイヤルアップ接続する場合等に用いられる。RFC 1661で規定。
<u>PPP over E</u> (PPP Over Ethernet)	PPPのリンク手順をイーサネット上で実行する仕様。ADSL（フレッツADSL、イーアクセス）で採用されている。RFC 2516で規定。
<u>PPP over A</u> (PPP Over ATM)	ATMネットワーク上からPPPのやり取りを規定した技術。ADSL（OCN、ACCA）で採用されている。RFC 2364で規定。
<u>ADSL</u>	既存の電話線ケーブルを使用する高速デジタル伝送方式。xDSLの中でも最も代表的な伝送技術。NTTのフレッツADSL等が採用している。
<u>ATコマンド</u>	モデム等を制御するためのコマンド体系の総称。コマンドの先頭は必ず‘AT’から始まる。
<u>ポート番号</u>	TCPまたはUDPが備える機能で、同一パソコン上で複数のネットワークアプリケーションを実行させるための仕組み。ネットワークから受け取ったパケットをどのアプリケーションに引き渡すかポート番号で特定することができる。 ポート番号は0～65535までであるが、0～1023まではWell Known Port、1024～49151までがRegisteredポートとなっており、使用方法が規定されている。49152～65535は、Dynamic/Privateポートとなっており、自由に使用することができる。

<u>WellKnown</u> ポート	ICANNが規定している予約されたポート番号。FTP→20/21、TELNET→23、SMTP→25、DNS→53、HTTP→80、POP3→110、SMTP→161などと決められている
<u>DHCP</u>	クライアントに動的にIPアドレスを割り当て、切断時に回収するためのプロトコル。
<u>MAC</u> アドレス	ネットワーク機器一つ一つに割り当てられる番号。全48ビットで、先頭2ビットが、ユニキャストかマルチキャストかを示す1/Gビット、続く22ビットが各製造メーカーに割り当てられた番号、残り24ビットが各メーカーが機器にユニークに割り当てる番号となっている。したがって、各機器のMACアドレスは世界で一つしかない。
<u>IP</u> アドレス	IPプロトコルで使用される各コンピュータに割り当てられるアドレス。全32ビットとなっている。通常は8ビット単位で区切られ、10進数で表される。(例 192.168.001.001)
<u>サブ</u> ネットマスク	IPアドレスの、どこまでがネットワーク番号として割り当てられたビットなのか識別、通知するための値。IPアドレスと同じで全32ビットで、8ビット単位で区切られ、10進数で表される。(例 255.255.0.0)
<u>GATEWAY</u>	ネットワーク上で、媒体やプロトコルが異なるデータを相互に変換して通信を可能にする機器。
<u>グローバル</u> IP (アドレス)	インターネットに接続された機器に一意に割り当てられたIPアドレス。インターネットの中での住所にあたり、インターネット上で通信を行うためには必ず必要である。IANAが一元的に管理しており、各国のNICによって各組織に割り当てられる。
<u>ローカル</u> IP (アドレス)	組織内のネットワークに接続された機器に一意に割り当てられたIPアドレス。NICに申請を行わなくても組織内で自由に割り当てることができるが、インターネット上での一意性は保証されないため、そのままではインターネットを通じて通信を行うことはできない。プライベートアドレスしか持たない機器がインターネットで通信を行うには、グローバルアドレスを割り当てられた機器にNATやIPマスカレード、プロキシなどの手段によって中継してもらう必要がある。
<u>スタティック</u> (静的) アドレス	ネットワーク上の各クライアントに固定IPアドレスを割り当てる方式。静的IPアドレス指定を使用しているネットワークでは、ネットワーク管理者が各コンピュータにIPアドレスを手動で割り当てる。静的IPアドレスを割り当てられると、IPアドレスが手動で変更されない限り、コンピュータは起動するごとに同じIPアドレスを使用してネットワークにログオンする。
<u>ダイナミック</u> (動的) アドレス	スタティックアドレスとは反対に、接続するたびにIPアドレスを割り当てられる方式。IPアドレスの割り当てはDHCPサーバにて行われる。ダイヤルアップ接続はこの方法が用いられる。
<u>ピア・ツー・ピア</u>	コンピュータ同士を1対1で接続する通信方式。
<u>サーバー</u>	コンピュータネットワークにおいて、クライアントコンピュータに対し、自身の持っている機能やデータを提供するコンピュータのこと。サーバはクライアントからの接続要求により接続される。
<u>クライアント</u>	コンピュータネットワークにおいて、サーバコンピュータの提供する機能やデータを利用するコンピュータのこと。クライアントはサーバへ接続要求を出すことによりサーバと接続される。
<u>パケット</u>	コンピュータ通信において、送信先のアドレスなどの制御情報を付加されたデータの小さなまとまりのこと。データをパケットに分割して送受信する通信方式をパケット通信と呼ぶ。
<u>フロー</u> コントロール	RS232C通信等で、データのオーバーフローを防ぐために、送受信を制御するための仕組み。RTSやCTS等の制御線を用いる場合は、ハードウェアフローコントロールと呼ばれる。

<u>トラフィック</u>	ネットワーク上を一定時間内に流れる情報量のこと。トラフィックの多さに比例して、情報伝達遅延や損失等の比率が高くなる。
<u>RFC</u>	インターネットに関する技術の標準を定める団体である IETF が正式に発行する文書。IP (RFC 791)、TCP (RFC 793)、HTTP (RFC 2616)、FTP (RFC 959 など) などインターネットで利用されるプロトコルや、その他インターネットに関わるさまざまな技術の仕様・要件を、通し番号をつけて公開している。
<u>ISP</u> (Internet Service Provider)	インターネットアクセスプロバイダのこと。
<u>ISP</u> (In System Programming)	システム内のフラッシュROMなどに外部からプログラムを書き込む方式のこと。

6. 製品サポートと使用上の注意

6. 1 製品サポートのご案内

6. 1. 1 弊社ホームページのご利用について

弊社製品へのよくあるご質問及びご要望については、弊社ホームページ上のFAQに掲載しております。掲載内容につきましては随時更新されておりますので、是非ご利用ください。また、バージョンアップについてもホームページ上より提供しております。

弊社ホームページアドレス <http://www.apnet.co.jp>

6. 1. 2 製品サポートの方法

製品サポートについては、FAXもしくはE-MAILでのみ受け付けております。お電話でのお問い合わせは受け付けておりませんのでご了承ください。なお、お問い合わせの際には、製品名、使用環境、使用方法等、トラブル内容など詳細に記載してください。

製品サポート窓口

■ FAXによるご連絡	053-464-3737
■ E-MAILによるご連絡	query@apnet.co.jp

6. 1. 3 製品サポートの範囲

以下の内容に該当するお問い合わせにつきましては、サポートの対象とはなりませんので、あらかじめご了承ください。

- 本製品を利用したアプリケーションプログラムの作成方法とそれらに関連するご質問
- 本製品の内部回路及びソフトウェア技術に関するご質問
- 本製品を利用したネットワークの構築のご提案や外部機器との接続可否の確認については有償にて承ります。

6. 2 使用上の注意

- 本製品を改造した場合、一切の保証は適用されません。
- 本製品を仕様範囲を越える条件において使用された場合については、動作は保証しませんのでご了承ください。
- 本製品に組み込まれたプログラム及び添付アプリケーションのリバースエンジニアリング及び本製品以外でのご使用は堅くお断りします。
- 極端な高温下や低温下、または振動の激しい環境での使用はご遠慮ください。
- 高湿度、油の多い環境でのご使用はご遠慮ください。
- 腐食性ガス、可燃性ガス等の環境中でのご使用はご遠慮ください。
- ノイズの多い環境での動作は保証しかねますのでご了承ください。
- 宇宙、航空、医療、原子力、運輸、交通、各種安全装置など人命、事故に関わる特別な品質、信頼性が要求される用途でのご使用はご遠慮ください。
- 万が一、本製品を使用して事故または損失が発生した場合、弊社では一切その責を負いませんのでご了承ください。